

平成23年 第18回
教育委員会臨時会会議録

平成23年7月26日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2330号

平成23年第18回臨時会

日 時 平成23年7月26日(火) 午前10時00分 開会

場 所 港区役所7階 711会議室

「出席委員」

委 員 長	半 田 吉 恵
委員長職務代理者	澤 孝一郎
委 員	綱 川 智 久
委 員	小 島 洋 祐
教 育 長	高 橋 良 祐

「説明のため出席した事務局職員」

次 長	小柳津 明
庶 務 課 長	伊 藤 康 博
教育政策担当課長	山 本 隆 司
学校施設計画担当課長	大久保 光 正
学 務 課 長	佐 藤 雅 志
生涯学習推進課長	大 竹 悦 子
国体推進担当課長 (生涯学習推進課長兼務)	大 竹 悦 子
図書・文化財課長	沼 倉 賢 司
指 導 室 長	平 田 英 司

「書 記」

庶務課庶務係長	柏 正 彦
庶務課庶務係	遠 藤 由香里

「議題等」

日程第1 審議事項

1 教科書採択についての請願

日程第2 会議録の承認

第2318号 第2回定例会、同秘密会(平成23年2月8日開催)

第2319号 第4回臨時会、同秘密会(平成23年2月22日開催)

日程第3 教育長報告事項

1 平成23年度第2回採用港区奨学生の選考結果について

2 平成24年度使用教科書採択について(秘密会)

「開 会」

○半田委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから平成23年第18回港区教育委員会臨時会を開会いたします。

それでは、日程に入ります。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○半田委員長 本日の署名委員は小島委員にお願いいたします。

第1 請願又は陳情

1 教科書採択についての請願

○半田委員長 日程第1、請願又は陳情に入ります。

平成23年7月11日付で請願が1件提出されました。本日は、同日付で受理した請願、教育委員会資料ナンバー1について趣旨説明の希望がございますので、伺いたいと思います。

趣旨説明を受ける前に、庶務課長から報告をお願いいたします。

○庶務課長 ただいま委員長からご案内がございましたとおり、平成23年7月11日付で請願が1件提出されております。この教科書採択についての請願につきまして、まず、書記に請願書の要約を朗読させますので、よろしくをお願いいたします。

○書記

近年の中学校教科書対策では、「新しい歴史教科書をつくる会」（「つくる会」）の歴史教科書、公民教科書が焦点となってきたことは周知のとおりです。本年の教科書採択においても「つくる会」（自由社版）及び「つくる会」から分裂した「改正教育基本法に基づく教科書改善を進める有識者の会」（「教科書改善の会」・育鵬社版）歴史教科書、公民教科書を採択する教育委員会があるのか否か、全国の保護者・国民の注目が集まっています。

本年5月、自由法曹団は、500名が参加した権利討論集会で決議を採択するとともに、育鵬社版・自由社版（両者をさして『つくる会』系）と言います）の教科書についての意見書を発表しました。

「法律家による『つくる会』系公民教科書（育鵬社・自由社）の検証」は、多くの人権をめぐる問題や社会問題に直接かかわっている法律家の立場から、公民教科書のすべての内容に検討・批判を加えた意見書です。また、この意見書のうち『つくる会』系歴史教科書の問題点」と題する論考では、歴史の見方や大日本帝国憲法の位置づけと戦争をめぐる問題など、歴史教科書についても法律家として黙過できない中心的問題点について検討しています。詳細は意見書に譲りますが、公民・歴史のいずれの教科書も根本的な誤謬や歪曲をはらんだもので、教科書としての適格性を有していません。意見書等をご検討いただき、「つくる会」系教科書の本質をご理解いただければ幸いです。

万一、「つくる会」系教科書が採択されるなら、子どもたちが歴史や憲法を正しく学ぶ機会が奪われるばかりか、「侵略戦争賛美や平和憲法否定に踏み切った自治体」となって東アジアの平和に悪影

響を及ぼすことにもなるでしょう。

自由法曹団と2,000名の弁護士は、貴教育委員会とすべての教科書採択関係者が6年前と変わらぬ良識と勇気を発揮され、「つくる会」系の歴史・公民教科書を採択されないよう強く要請する次第です。

○半田委員長 それでは、請願者を代表して、自由法曹団弁護士 馬奈木巖太郎さんから趣旨及び補足説明を受けることといたします。

では、請願者の方、どうぞ。

○請願者 おはようございます。貴重な時間をいただいて感謝しております。

私は弁護士の馬奈木と申しますけれども、自由法曹団を代表して今回の請願の趣旨について補足説明をさせていただきたいと思っております。

私たちは、自由法曹団という、全国約2,000名の弁護士から成る法律家団体で、人権、民主主義、平和主義といったものの擁護を標榜して、戦前の1921年に結成された団体であります。今年でちょうど結成90周年を迎えることになっています。

今年度の教科書採択に際して、先ほど要約をまとめていただきましたけれども、請願書を提出しております。今回の請願趣旨について法律家団体の立場から改めて意見を補足的に述べさせていただきます。

まず、委員の皆様にご認識していただきたいのは、改めて申し上げるまでもないことですが、憲法というものは国の最高法規であって、憲法によって国家というものが成立し、憲法に従って運営されていかなければならないという、誰もが争わない根本原則についてです。もちろん、現在の政治制度、あるいは教育制度といったものも、その基本が憲法に規定されています。そのため、教育基本法にしても、教科書採択にしても、憲法の本質と相入れないものは許されません。憲法は教育現場にも該当するのだというこの明確な事実を冒頭で確認しておきたいという風に思います。

その上で私たちは、歴史と公民の教科書採択について、具体的には自由社と育鵬社の内容についてその問題点を指摘したいと思っております。時間が限られていますので、両社の両科目いずれにも共通する問題点についてのみここでは言及することにします。

法律家団体である私たちから見た場合、両社の教科書には大きく二つの観点で問題があるという風に考えています。それは何かというと、あえてキーワード的に言えば、今のこの国の形と今のこの国の成り立ちについて、この二つについての認識が決定的に誤っているということです。

では、まず一つ目。「今のこの国の形」とは何でしょうか。先ほども申しましたように、今の日本国という国家は、日本国憲法によって成立し、存続しています。国家という政治的な枠組みは憲法によってつくられているからです。「憲法」を英語では「コンスティテューション」というふうに言いますが、「コンスティテュート」とは「構成する」とか「構築する」という意味です。まさに国家を創設するものが憲法ということになります。

では、今の日本国というこの政治的な枠組みを創設した日本国憲法は一体どういった内容のものだったのでしょうか。日本の歴史において、現行憲法、今の日本国憲法の特徴というのは、日本の歴史上初めて、国民主権、個人の尊厳、あるいは個人の尊重といったものをうたった憲法であるとい

う点にこそ、今の日本国憲法の特徴が見出されるべきでしょう。いわば普通の国であれば当然だと考える原則を初めて採用したのが今の日本国憲法ということになります。国民主権、あるいは人権といった意味で、普通の国の仲間入りを果たすことがこの日本国憲法においてできたということが言えると考えられます。

ところが、両社の教科書ではこの手の認識が決定的に弱いという弱点があると私たちは考えています。一々の具体例を挙げることはいたしません、個人の尊重ではなく、むしろ、より大きなものへの忠誠や奉仕といったものの強調、あるいは公共の福祉や義務の強調といった内容が目立ちます。日本の歴史上初めて、個人の尊厳を正面から訴え、個人主義に立脚するという現代の日本国の原則、いわばこの国の形の根本部分についての理解が両社の教科書は誤っていると言わざるを得ません。

そして、なぜそうした認識の誤りが生じるのかという点ですが、これが二つ目のキーワードである今のこの国の成り立ちについての理解にかかわってきます。今の日本国というのがなぜ成立したのかというと、これは敗戦の結果、日本国憲法が成立したことに根拠を有するわけですが、戦後の日本というのは単に戦争に負けたというだけではなく、あの戦争は間違った戦争だったという認識から再出発しています。より厳密には、あの戦争だけ、先の大戦だけではなく、戦争一般が誤っているというのが日本国憲法の立場ではありますが、その点は置いておいても、単に戦争に負けたからではなく、あの戦争は間違った戦争だったというところから出発したという点が重要です。そして、それはまた、そのような認識を持つことは当時の国際公約でもありました。ポツダム宣言などを引くまでもなく、当時、日本の再出発というのは、そういう意味で、決して無色透明のところから始まったわけではありません。この理解は、戦後の日本を考える上では決定的に重要だと私たちは考えています。

ところが、あの戦争は間違った戦争だった、あるいは先の大戦は否定されるべきだという、今の日本国の成り立ちのいわば立脚点に関する理解が、両社の教科書では致命的なほど欠落しています。ファシズムの歴史的意味や植民地支配の実態、あるいは、天皇制や軍部による支配など、全く不十分としか言いようがありません。しかし、これらはいずれも平和や軍事力の問題について日本国がいわば普通の国を超える決断をした経緯にもかかわるものであり、今のこの国の成り立ちを理解するためには不可欠な事柄のはずでした。この点での認識がどのようなものであるのかは、教育上、決してどうにもならない事柄ではあり得ません。

簡単に見てまいりましたが、両社の教科書には以上のような問題が含まれています。今のこの国の形と今のこの国の成り立ちという点は、公民と歴史の教科書においてそれぞれ核心にかかわる部分です。そして、この点に問題があるということであれば、端的に言って、公民や歴史の教科書としては不相当としか言いようがありません。自由社及び育鵬社の教科書が採択されることがないよう、委員の皆様におかれましては、どうか賢明な判断をお願い申し上げ、私たちの要請の趣旨いたします。ありがとうございます。

○半田委員長 説明は終わりました。趣旨説明者に内容確認などの質問がありましたら、お願いいたします。

○教育長 1点よろしいですか。今、「つくる会」系という表現で、自由社版と育鵬社版の教科書のことについてご説明していただいたのですが、他の教科書については、自由法曹団としては全く調べていないのか、それとも調べているのか。そして、もし調べているとすれば、どんなことが感想としてあるのかということをお教えいただけますか。

○請願者 おそらく委員のお手元にも、事前に我々の意見書というものが送られていると思います。さきに請願した際にお渡ししています。その中でも若干比較する形で紹介しておりますが、この2社だけを取り上げて、他の出版社の教科書と一切比較していないというようなことはありません。我々、論点表というものを既にもう作ってしまっていて、もしご入り用であれば後でも提出することは可能なのですけれども、一覧表というものを、いわゆるエクセルでつくって、各項目ごとにどのような点に強調を置いているか、触れているか、あるいは触れていないか、この案文などでどのような人物を取り上げているか、あるいはいないか。表とか年表等々含めて、項目ごとに2社以外の教科書とも比較して、一覧表のようなものを作って比較はしていますので、一切見ていないというようなことはございません。では、我々の立場から見たときに、他の教科書が100点満点かというところ、必ずしもそういう趣旨ではございませんが、この2社のある種の特異性というか、顕著さというものが他の出版社に比べても著しいものがあるだろうというふうに考えております。今回の趣旨は、特定の出版社を挙げて「採択してくれ」という要請ではなくて、「この出版社の教科書だけはやめていただきたい」という趣旨ですので、この2社を具体的に取り上げて問題点を指摘しておりますが、その際に、他の出版社について全く検討しないというようなことは、これは私たちの立場ではありませんので、一覧表などをつくって検討を加えております。

○小島委員 今のご説明をお聞きしまして、昔、大学で憲法を学んだときの、教授の方たちの情熱的な講義と今のご説明はほぼ一致しております。今、この意見書を読ませていただいて、その言わんとすることはよく理解できました。

○澤委員 小島委員と似たような世代で、我々は、第二次世界大戦の直後に小学校時代を過ごして教育を受けました。そういうことを振り返りますと、確におっしゃられるように、我々が教科書を選ぶということは、今の中学生が社会人になったときにきちっと世界の中で公平な目で見られるような、そういう基礎をつくってあげることが大事で、その基本になるのが教科書です。その辺のところは我々もすごく慎重に考えております。我々は、中学、大学と、それから、高度成長期に社会人として過ごしてきました。これは全く個人的なことですけれども、平たい言葉で言うと、日本の歴史、伝統はもちろん日本国民として大事なことだと思います。当然それを大事にした上で、国際的な視野の広い人材を育てることが大切です。こういう表現が適切かどうか分かりませんが、戦後の自由な指向、民主主義の方向に対して、若干偏っているような流れといえますか、自分の個人的な立場で言うと、危険性を感じているという面もあります。そういう意味では、私個人、一委員としては、子どもたちに偏見を持つような教科書は選びたくない。しかも、港区は七十幾つも大使館があって、国際的に見ても先進的な立場にいる区だと思いますので、そういうことも視野に入れて、子どもたちにとって将来本当に役に立ったという教科書を選びたいと思っております。今日も、教育長、小島委員が言われたように、貴重なご意見をいただけたということは我々もたい

へん参考にさせていただきたいと思います。

○小島委員 私は、歴史も公民も、中学生の教科書というのは、まだ歴史も社会の仕組みも何も分からない、そういう子どもたちに教える教科書という意味で、今、澤委員がおっしゃったように非常に大事なものだと考えております。そうであれば、歴史も公民も、学問として、科学として多くの人たちが研究して、その成果を上げていく。その科学的にこういうものではないかという範囲内で教科書というのは作られるべきであって、科学としての学問の成果から外れるようなものというのは、それはこれから新しく物事を学んでいく中学生にとってはふさわしくないのではないかと思います。私は、教科書も学問として科学としての成果に忠実でなければならないなというような感想を持っています。

○半田委員長 それでは、この案件はよろしいでしょうか。請願者の方、どうもありがとうございました。

○請願者 ありがとうございました。よろしく願いいたします。

○半田委員長 教科書採択に当たって、港区教育委員会としましては、学校教育法の趣旨を踏まえ、適切な採択を行いたいと思います。請願者の方、お疲れさまでございました。

○請願者 どうもありがとうございました。

第2 会議録の承認

第2318号 第2回定例会、同秘密会（平成23年2月8日開催）

第2319号 第4回臨時会、同秘密会（平成23年2月22日開催）

○半田委員長 それでは、日程第2、会議録の承認に入ります。

平成23年2月8日開催の第2318号、第2回定例会、同秘密会。

そして、平成23年2月22日開催の第2319号、第4回臨時会、同秘密会の会議録につきましては承認ということでよろしいでしょうか。

（異議なし）

○半田委員長 それでは、承認することに決定いたしました。

第3 教育長報告事項

1 平成23年度第2回採用港区奨学生の選考結果について

○半田委員長 では、日程第3、教育長報告事項に入ります。

まず初めに、「平成23年度第2回採用港区奨学生の選考結果について」。庶務課長、説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは、今年度第2回の奨学生募集の選考結果につきましてご報告申し上げます。

資料ナンバー2をご覧ください。今年度の第2回は、平成23年5月10日から6月10日まで1カ月の間、募集を行いました。その結果、高校生2名が応募されまして、家庭の収入状況等を確認の上、いずれも候補者足り得る資格があるということで、7月14日に開催されました奨学資金

運営協議会にお諮りしたところ、この2名の方とも候補者として妥当であるというご判断をいただきましたので、2名の方を候補者として決定したものでございます。報告は以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 いつも第2回は2名とか、もうちょっと多かったでしょうか。人数的にはどうなのですか。

○庶務課長 第2回目の募集は、高校の在学生在が対象になります。4月から新たに高校生もしくは大学生になる方については、その前年の11月から12月にかけて既に募集してございまして、その時点では応募の意思はなかったのだけれども、学校に在学してから、やはり家計的に厳しいので応募をしたいという方が中心ですので、例年、人数的にはそう多くはございません。

○小島委員 分かりました。

○半田委員長 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

2 平成24年度使用教科書採択について

○半田委員長 次に、「平成24年度使用教科書採択について」。

この案件の説明を受ける前に、公開、非公開の取り扱いについてお諮りいたします。

この案件につきましては、候補教科書について教科書選定研究委員会から資料の説明がある関係で非公開にしたいと思います。理由は、公平、公正な選択を期すため、公正な発言を確保すること、また、教科書選定研究委員会、教科書調査研究委員会の委員名についても採択終了後までは非公開とすることが適当であると判断するからです。

本件につきましては非公開にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○半田委員長 委員全員の承認を得られましたので、「平成24年度使用教科書採択について」。会議は非公開とします。

なお、会議録につきましては、教科書採択決定後においては公開とします。また、今回配布しました教科書採択用資料につきましては、教育委員を除いて教育委員会終了後に回収しますので、よろしく願いいたします。

本日は、この案件が最後となります。傍聴の方は、本日はいらっしゃいませんね。

それでは、議事の運営上、ここで委員会を休憩させていただきます。再開は午前10時30分といたします。よろしく願いいたします。

(午前10時25分)

(休憩)

○半田委員長 それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

(午前10時30分)

○半田委員長 それでは、この約2カ月余りの間、来年度から港区の子どもたちが使用する教科書についてご審議いただいております教科書選定研究委員会委員長の田邊伸雄先生からごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員長（田邊） おはようございます。教科書選定研究委員会委員長の六本木中学校校長 田邊伸雄でございます。よろしくお願いいたします。

これまで、教科書選定研究委員会を3回開催してまいりました。本日は、この教育委員会の席上で、平成24年度区立中学校使用教科書選定資料につきまして、各教科代表の選定研究委員から報告を行ってまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

○半田委員長 それでは、これから資料に基づきまして教科ごとに教科書選定研究委員会からご説明をいただき、確認したい点などにつきましてこちらから質問させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、金谷毅先生、音楽一般をお願いします。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） 御成門中学校の金谷です。音楽を担当いたしました。まず、一般の教科書について説明させていただきます。

音楽については、2社、17番の教育出版、27番の教育芸術、それぞれ（1）から順に説明していきます。

内容の選択についてですが、日本の曲、外国の曲の選択については、両社ともかなり十分にバランスをとって配置されているという点があります。特別な違いはありません。

鑑賞教材については、教育出版は、鑑賞曲についての説明資料が多く載っている点や、鑑賞のページに簡単なワークシートがついているという特徴があります。もう一社、教育芸術社については、新学習指導要領にもある曲の背景となる文化・歴史と関連づけて理解するという点においては、鑑賞することに対して有効であるテキストだという特徴があります。

そして、その他といたしまして、先程ワークシートが教育出版にもありましたが、教育芸術のほうでは、特に表現・創作のためのワークシートが充実していて、段階的に学習できるという点でより充実しているという点がございます。また、生徒が指揮をするということについては、両社ともに、全学年において指揮の仕方を載せているという点で子どもたちが活用しやすくなっています。教育芸術のほうは、特に系統立てていて、ステップアップという点では役立つという特徴があります。

音楽の歴史、音楽の歩みという点については、双方とも特徴を持って表現されています。教育出版では、音楽の歩みについては、日本と西洋の音楽の歩みという点で、写真と文章との説明があります。また、教育出版では、「特集」というコーナーで、国境を越えて影響し合うという意味で、日本の音楽の歴史を理解をする点で、その説明が丁寧になされているという点があります。

2番目、構成・分量についてです。どちらも構成的には工夫されていることで、中心教材及び補助教材も十分な量が掲載されていて、また、中心教材についての説明や伴奏等についてもそれぞれ工夫されて配置されています。あと、補助教材としても双方とも資料が十分に載っているという点で、下のほうに数が表現されています。

3番目の表記・表現ですが、表記の分かりやすさ、表現の分かりやすさという点でそれぞれ工夫を凝らしています。教育出版は折り込みページがあるということで、その辺が見やすいような展開をしています。教育芸術は、目次の項目に学習活動についての目当て、目標であったり、学習活動文がまず載っているという点で、基礎的・基本的な内容を習得する上で非常に見やすいという特徴があるということです。また、教育出版も、関連ページを記載したり、「用語や記号」などを載せるなどして、その辺は見やすい工夫をしているということで、双方それぞれの特徴を持っているということになります。また、楽譜も歌詞も見やすいようにはなっていますが、分量の点では、多少大きさの違いがあるという点があります。教育芸術で、その他ですが、演奏の写真の中では、最近活躍している人を多く載せているという点や若い人を載せていることによって、生徒に対する身近な印象という点が考慮されている特徴があります。

使用上の便宜についてです。それぞれ発展的な内容は具体的に分かりやすいようになっているという点で、双方とも特徴をとらえて生かしています。例えば、港区ではどこの学校も合唱コンクールを行っているわけですが、そのときに各学年で課題曲を選定するのに、教科書に載っている課題曲のリストが非常に参考になるわけです。その点で、教育出版についても課題曲になりやすい曲が十分載せられている。また、教育芸術も、心通う合唱という点で課題曲になりやすいものが載っておりますが、さらに、特に今まで長く歌い継がれている、よく取り上げられてきた曲も多く載っているという点で特徴があります。あと、港区としての関連ですが、港区では、3年生を中心に劇団四季鑑賞教室が3月にありますが、その劇団四季の「ウエストサイド物語」のキャストの写真が掲載されているという点で非常に親しみがあるという点があります。教育芸術の教科書では、毎年3年生に音楽鑑賞教室を行っているわけですが、そこで取り扱っている主に「モルダウ」であったりとか、その他の曲ではここで数年扱っている曲が掲載されているという点でなじみがあるということで、こちらのほうもそういう特徴があります。また、国歌についてはどちらも全学年に掲載されているということです。以上、まず一般についてご説明をさせていただきました。

○半田委員長 ただいまの説明に対して何かご質問はございますでしょうか。

○澤委員 色々特徴を取り上げていただき、参考にさせていただいたわけですがけれども、3番の表記・表現のイのところで、「楽器の音符が小さ目である」という、この報告書の中では唯一ネガティブな表現が使われています。これは先生方から見て大きな障害ですか、それとも生徒にとって大きな問題ですか。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） 楽譜を全体的に載せているというメリットがあるので、その点で多少小さ目になったとしても、それはあまり大きなデメリットはありません。

○小島委員 両社とも、2年生、3年生の上・下となっていますよね。これは音楽の教科内容として、1、2、3ではなくて2、3の上・下となるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） そうですね。2年生、3年生は時間数のこともあるのですがけれども、その両方、2年生、3年生を通して学んでいくという形になっていますので、それをあえてどちらからもとれるようにという形になっています。あえて2、3の上が2年生と断定していないわけですね。また、2のところに入れて、そこを3年生でやってもいいし、それをどういうふ

うに選ぶかというのはある程度教員がどこで何をするかということで、2年、3年についてあえて合本という形にしています。

○小島委員 そのどちらを先にやるかは先生が自由に決められるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） そうですね。もし2年生ということで決めてしまうと、下で使いたいものを2年生に繰り込むことはできない。ですから、こういった面で2年・3年の上・下巻という形にして、例えば今2年生なのだけれども、3年生のほうの下巻を持ってきなさいねみたいなことはできるわけですね。そのように我々は理解しています。

○綱川委員 (3)の表記・表現のところなのですが、「用紙の色が白い」とありますが、これは、プラスで書いていらっしゃるのでしょうか、マイナスで書いていらっしゃるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） こちらの白いほうが多少目がちらつくと感じました。

○綱川委員 白いほうが目がちらつくということですか。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） ええ。もう少し穏やかな紙質がいいのではないかという意見がでていました。

○綱川委員 分かりました。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） 強いて言えばほとんど、大した違いはないです。

○綱川委員 両方こうして見せていただいて、確かに白いなと感じました。ありがとうございます。

○半田委員長 続きまして、音楽の器楽合奏の説明をお願いします。

○教科書選定研究委員会委員（金谷） それでは、器楽合奏です。基本的に一般とこの器楽合奏との関連性は非常にあるということを前提に説明させていただきます。同じく教育出版と教育芸術社になります。

まず、内容の選択についてです。楽器の取り上げ方についてはどちらも十分にバランスよく取り上げられています。また、奏法についても、それぞれそれなりに説明されているということになります。そしてまた、楽器が単体で出ているだけではなく、その楽器を組み合わせるといって意味で、アンサンブルという点についても発展ができるような形になっています。内容の選択については両方とも似ているという点があります。

2番、構成・分量です。構成についてですが、左側のほうの教科書は、前半に基礎的な奏法や楽器の特徴が理解できるような形ということで、主に和楽器のほうから、後はアルトリコーダー、ギターなどの西洋の楽器というような順番になっていますが、特に後半はいろいろな合奏などの演奏を楽しめるという構成になっています。右側の出版社のほうは、一番使用頻度の高いアルトリコーダーをまず初めに載せて、その指導から入るといって形で、順番的には学校で教える流れになっているという点があります。その上で、ギター、そして和楽器が入るといって形になっています。そういった面では、系統立てているという点では特徴があると思います。特に今、これから和楽器の指導を充実させるという点では、どちらも和楽器に対して十分な奏法であるとか、説明であるとか、そういったものも十分に載せているということ、また、アンサンブル曲については、楽器が組み合わせられて演奏する曲の取り上げ方についても、諸外国の民謡であったり、我が国の唱歌であったりという点では、和洋それぞれがバランスよく取り上げられているという点で、双方とも良好な内容と

いう形になっています。順番だけが、ここが違う動きになっております。

(3)の表記・表現です。左の出版社のほうは大変詳しく説明されています。説明されている分だけちょっと理解が難しくなる部分もあるかもしれないという点が一つあります。右側のほうの出版社も丁寧に説明されているということで、基本的なイラスト等を使いながら見やすく説明されています。そして、楽器の写真をいろいろな角度から写すとか、あるいは奏法を大きく載せるとかして、それぞれ特徴を持って楽器についての表現が理解しやすいようになっています。左の出版社のほうには、特に箏曲、琴についての調子を整えるところの説明が詳しいため、生徒でも実際に箏を目の前にしたときに調弦しやすいよう、そういう点で工夫がなされているという点があります。

使用上の便宜ということですが、まず、左側の出版社のほうでは難易度ということを示していて、発展的な学習に取り組みやすくなっているということや、ジャンルが広いために興味を引きやすいという点もあります。また、右側のほうの出版社も、学習の発展ということでは、和楽器が充実している点の一つ特徴があります。それから、「名曲スケッチ」ということで、親しみやすさを引き出したり、また、親しみやすい曲を多く取り入れながら、達成感を味わさせるという点で特徴があります。左側で最後に書きましたイのリコーダーという点ですが、これは折り込みページになっておりまして、広げたときにリコーダーの運指表が大変見やすくなっており、リコーダーの勉強ということに関しては折り込みページが活かされて、指使いについての説明を子どもたちが理解しやすいという特徴がございます。以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対しまして何か質問はございますでしょうか。

○澤委員 今、ご説明がありましたけれども、これも、(3)の表記・表現の教出のところのAに「大変詳しく説明されているが、反面、大切なポイントを理解するには、説明がやや複雑である」というコメントが書かれております。これは、詳しく書いてあること自体は必ずしも悪いことではなくて、教える先生方に対して大事なポイントだということですか。

○教科書選定研究委員会委員(金谷) そうです。比較したときに、教出のほうの方が分量が多めである。それに対して、こちらのほうはコンパクトで要領よくまとめられているという印象です。

○教育長 ここにはあまり書かれていないのですけれども、教科書をぱっと見たときに、教芸は若い子供たちにとって身近な演奏者がまず最初に写真で出ているのですね。この人たちを中心に、中の演奏の方法も、その写真の人がやっているというのが非常に新鮮で、子どもにとっては馴染みやすいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員(金谷) 結局、それと関連性があると言ったのも、一般と器楽のほうはほとんど一緒につくられているかと思うのですが、そういう点で、この教科書4冊全体が若い方たちを取り上げているということだと思うのです。この器楽もそうですし、一般のほうも若い方たちが取り上げられていると。その辺は、教員の立場とすれば若い人がいいのかなという声はありました。

○小島委員 委員長にお聞きしたいのですが、音楽の一般と器楽合奏の選定資料と調査資料を見比べながら聞いていたのですが、この調査資料と選定資料とはどんな関連があるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員長(田邊) 調査資料のポイントを絞って1枚の用紙にまとめたのが

こちらの選定資料となっています。

○小島委員 調査資料にそのまま載っているのと、調査資料ではなくて選定資料に載っているのがあるのですが、その辺はどんな感じで見ればよろしいのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員長（田邊） 今お手元にあるこちらの選定資料が最終的にまとめたものなので、こちらのほうを一緒に見ていただけたらということです。

○小島委員 分かりました。

○半田委員長 続きまして、東保明校長先生、美術の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（東） 港区立三田中学校校長の東と申します。美術の教科書を担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

選定資料の美術のページを開いていただきたいと思います。美術の教科書につきましては、開隆堂、光村、日文の3社がございます。それぞれの研究の観点につきましてそれぞれの特徴を説明させていただきます。

まず、内容の選択につきまして、開隆堂は、生徒の作品と作家の作品のバランスにつきましてはバランスよく配置されております。

光村につきましても、生徒の作品を多く載せて、活用させやすいようにしております。

日文につきましても、生徒の作品が多く、その作品の例も身近なものが多いということです。

それから、2番目のイのところでございますが、日本人作家と外国人作家につきましては、それぞれの教科書についてもバランスよく載っております。特徴といたしましては、開隆堂は、非常に興味深い作品を載せている点でございます。

それから、光村につきましては、新進気鋭の作家が多少多くありますが、鑑賞しやすい、指導しやすい作品を載せております。

日文につきましては、日本の作家の作品が多く取り扱われております。

ここで、その他につきましては、開隆堂につきましては、作家の言葉などを掲載して、生徒の関心や理解を深めやすいようにしております。

光村につきましては、鑑賞関係で詩を載せたりして、美術の作品と詩の調和を図っているところが見られます。

日文につきましては、日本の伝統的な工芸品等の扱いを多くしております。

構成と分量については、開隆堂につきましては、解説が非常に充実しておりますので、表現活動と鑑賞が一体化できるようにつくられております。

光村につきましては、作家の言葉が入っております、これも表現と鑑賞の一体化が図れるものでございます。

日文につきましては、印象的な作品を非常に多く取り上げておりますので、それを逆に教員のほうで工夫しやすい面が見られます。

その他につきましては、開隆堂の非常に大きな特色ですけれども、2・3年用の教科書が合本化されております。情報量が非常に多くなっております。

光村につきましては、技法についての記述が非常に具体的で、表現活動が生徒には非常にイメー

ジしやすいという状況です。

日文につきましては、多様な扱いができるように、非常に内容をうまく表現し、コンパクトにまとめています。

(3)、表記・表現につきましては、各社とも非常に工夫をしてございます。アの説明の分かりやすさですけれども、これはどこの会社も非常に分かりやすい状況がございまして。開隆堂は、文章が理解しやすく、また、生徒自身の振り返りが非常にできやすい、そういう表現になっております。光村につきましては、題材の説明、資料の説明が非常に分かりやすい説明になっております。日文につきましては、理解を深めさせ、考えさせるようなコメントを非常に工夫してございます。

写真、色使いにつきましては、各社非常に工夫がございまして。

開隆堂につきましては、写真を非常に多く使って、色使いも非常に見やすい状況がございまして。

光村につきましても、写真を多く利用し、発想を広げやすいという状況があります。

日文につきましても、写真が非常に多く、また、見開きをうまく活用している状況がございまして。

開隆堂については、図版を非常に効果的に使っております。

光村につきましては、図版の大きさを非常に工夫をしながら、指導しやすいようにしてございまして。

日文につきましては、学習内容が分かりやすいテーマを表現・表記してございます。

(4)の使用上の便宜・その他についてです。まず、アのaのところでございますけれども、開隆堂につきましては、生徒の作品を学校行事等で活用できるような場面をうまく工夫してございまして。

光村につきましては、非常に丁寧な表現を使い、かつまた、生徒が美術の発展的な技法に取り組むように工夫がされてございます。

日文につきましては、イベントの紹介などが非常によく出ておまして、生徒のほうでそれを発展的に学校行事等で使えるようになっております。それから、生徒の興味・関心ですけれども、開隆堂については、多様な作品を取り上げて、生徒のニーズに合わせるようにしてございます。光村につきましては、写真を非常にうまく活用し、興味を引くようにしてございます。

日文につきましては、生徒の意欲、発想を広げられるように編集を工夫してございます。

それから、港区及びそれ以外の近隣のいろいろな施設の作品については、開隆堂につきましては、渋谷駅にございます岡本太郎「明日への神話」が掲載されております。

日文につきましては、岡本太郎の作品とともに、ミッドタウンの和紙を活用したものについての写真が出ております。

最後ですけれども、日文につきましては、題材ごとに使いやすい構成が見られるというところがございました。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○半田委員長 ただいまの説明に対しまして何かご質問はございますか。

○澤委員 内容の選択のところ、開隆堂の「国内外の作家共に興味深い作品が多い」ということと、日本のほうでは、「日本の作品がより多く使われている」とあるのですけれども、「興味深い」というのは具体的にはどういうことなのか。それから、日本の「日本の作品がより多く使われてい

る」というのは、実際、美術の教科書として良いことと考えておられるのか。その2点をお聞かせいただきたい。

○教科書選定研究委員会委員（東） まず、「興味深い作品」についてですけれども、これは生徒の側からの興味深いという面では、非常に分かりやすい、非常に有名な方が多く取り上げられているという点がございます。また、作例が、教員のほうとしても説明がしやすいという点がございます。

それから、日文の日本の作品についてですけれども、これは、生徒には分かりやすいという面もございますので、どこの社も日本の作品がかなり増えております。出版社によりますけれども、半分以上、7割近くございます。逆に、生徒にとっては、日本の歴史の流れの中で分かりやすい面があるのではないかと。これは社会科との関連もございますので、そういう面では日本の作品が扱われていると理解しやすい面があるのではないかとというふうに現状では考えております。

以上でございます。

○澤委員 ありがとうございます。

○半田委員長 よろしいでしょうか。続きまして、高松中学校 久保田靖明校長先生、地理の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それでは、まず、社会科地理的分野の説明をさせていただきます。

内容の選択でございます。東京書籍ですが、アに書きました、世界地理は概観に時数を割いて、諸地域の学習を深化させる内容構成になっているというところに特徴を感じております。

教育出版も、アに書きましたが、ここは、多様な人々の暮らしを取り上げるとともに、民族についての取り扱いが多い。例として、太平洋の島々の人々の暮らしを取り上げていますが、新鮮さがあります。

帝国ですけれども、特徴的なところはイに掲げました。これは4社とも書いてありますが、日本の諸地域の学習が、地誌的に扱うような形に今回改められましたけれども、その地誌的な扱いの中で、自然はこの地方を扱うとか、他地域との結びつきはこの地方を中心にとか、観点を示しているわけですが、どの地方をどの観点の切り口にするかという点で、他の3社とは違った取り上げられ方をしております。だからどうということはございませんけれども、3社と比べて取り上げが少し異なる。九州は自然を扱い、中国・四国は他地域との結びつきを扱い、近畿は環境を扱い、中部地方で産業を扱い、関東地方で人口・都市、東北地方で生活・文化、歴史は北海道と、こういう形で構成されているということでございます。

それから、日文のほうは、イのところですが、世界のさまざまな地域の調査の事例として、それぞれ一事例ずつ取り上げられているのですが、ここはロシアを取り上げており、特徴的であると思っております。

次に、構成・分量ですが、東京書籍は、アに書きましたとおり、適量で充実しており、資料集の必要がないほどであるということです。これだけワイド版になっておりますので、その特徴が出ている部分もあります。

教育出版は、アに書きました、世界と日本の配当バランスにそれほど大きな差を設けていません。

帝国は、内容的に取り上げ方が適量であるということです。

日文は、世界地理と日本地理の構成の割合を比較すると、日本地理の割合が多いという特徴がございませう。

表記・表現ですけれども、東京書籍は、アに書きましたが、平易な表現で分かりやすく、ルビが多く振ってありまして、読ませるときに読ませやすいという特徴があります。また、ウに書きましたが、世界地誌の方では、そこに住む人々をイラストで登場させ、具体的な暮らしの話を掲載しており、興味・関心を引くように工夫されています。

教育出版は、イに書きましたけれども、世界と日本のページの間にさまざまな世界地図を配置し、生徒の興味を引きつける工夫が見られます。

帝国のアですけれども、表記・表現は平易で、大変分かりやすい表現になっております。

日文は、内容的には、表記は平易で分かりやすいということでとらえております。

使用上の便宜・その他でございます。各社とも工夫を凝らしております。東京書籍のアのbに書きましたが、「地理にアクセス」というところがありますが、学習上のポイントを押さえ、本文の内容に興味・関心を引きつけるよう工夫されている。こういうものはどの社も工夫されております。

教育出版は、ここは何といっても、いわゆる授業で扱いやすい教科書の構成と申しますか、つくりになっております。アのbに書きましたけれども、キャラクターも多く登場させております。毎時間の小見出しがありますが、そこもかたい小見出しというよりも、サブテーマなどもつけられてありまして、授業でそのまま使えるというような小見出しのつけ方が工夫されているという特徴がございませう。

帝国のほうは、イに書きました。これも工夫ですけれども、毎時の「チェック&トライ」というところがありまして、作業学習を通して学習の振り返りができるように工夫されております。

日文のほうは、これも工夫ですが、アのaに書きました「地理ズームイン」というページがありますが、先端技術の進歩とかバーチャルウォーターなど今日的課題を深める工夫がされております。

地理のほうは以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございませうでしょうか。

○小島委員 東京書籍の表記・表現のところのウで「世界地誌」という言葉がありますよね。この「地誌」というのはどういう意味なのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それぞれの地域の特色について知識を中心に細かく学習していくということです。知識理解の点で学習させていく、かつて我々が学習して方法で、その後は、なるべく細かい知識事項を理解させるのではなくて、範例的に見ていくということが行われているのです。しかし、しかし知識理解の部分が不足しているということがあり、再度細かくそ地域ごとに見ていくという、そういう学習法になっています。

○小島委員 東書の最初の内容の選択のアですが、「世界地理は概観に時数を割き、諸地域の学習を進化させる内容構成である」というのですが、これはどのように考えればよろしいですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 全般的な内容の取り上げなのですけれども、最初のほうのページ、22ページからですが、それぞれの地域についてかなり概観的にまず教えていく。そし

てさらに、そこから各地方をそれぞれ細かく扱っているということ。44ページからアジア州から入っておりますが、概観を押さえて各地域にと。さらに、地域のほうも、最初に割と概観のような説明があって、それぞれの諸地域に入っていくという内容構成になっています。

○小島委員 総論、各論のような構成ですか。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) そうですね。どの教科書もそういう構成になっています。

○小島委員 分かりました。学習理解に便利で、良いのではないかということです。

○半田委員長 この使われている写真なのですが、大体いつごろ撮影されたのかなと思うのがありました。例えば、飛行機が空港に着陸している写真があったのですが、それに「ノースウエスト」と書いてあるんですね。今はもうデルタ航空になっていますから、そういうスピード感が欲しいですね。地理というのは日進月歩なところもありますし、逆に言うと普遍的なところもあるので、そういうところの写真を見ても、「あれっ、これ、ちょっと昔だよ」と感じない教科書がいいかなと思うのですが、その辺というのはどうでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) それは新しい教科書がいいと思いますが、そこまでチェックしていません。特に今回の震災にかかわる部分は見ましたが、そこはやむを得ない部分もあるかと思っております。実際、差しかえがあるかもしれません。特に日本の東北地方ですね。ただし、委員長ご指摘のとおり、新しい写真であるほうがより良いと思います。

○小島委員 確かにそのとおりですね。

○半田委員長 他にございますか。

○小島委員 今まで地理のときに、よく各国の、例えばアメリカとかヨーロッパではどこを選んで、アジアではどこを選んでとか、いましたよね。地理のときは必ず各教科書で三つぐらいの国を特徴的に取り上げていましたよね。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) これまでは中学校もそうでしたが、今回は全体的に扱う形になっています。

○小島委員 そういう意味では、小学校と違うのですか。それとも、いつもとは違うのですか。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) 前に戻ったという感じですね。以前のように世界の各地域を順次みていきます。

○小島委員 ある程度、平等、普遍的に教えていくということですか。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) はい。

○小島委員 最近特にアジアはどこのとか、ヨーロッパはどこのとか、特徴的に取り上げていましたよね。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) はい。

○小島委員 なるほど。そこが違うのですか。分かりました。

○教科書選定研究委員会委員(久保田) 取り上げている場所は全て同じということに今回はなりません。

○澤委員 若干表現は違いますが、内容の選択のアのところ、先程久保田先生も言われたように、太平洋の島々の人々の暮らしというのを取り上げているのがすごく新鮮だというご説明を

いただきましたけれども、これはどのように受けとめたらよろしいですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） オセアニアは、オーストラリアを中心にこれまでやってきたのですけれども、ここは102ページですが、太平洋の島々を取り上げていますので、新鮮な新しい視点かなというようなところはございます。

○澤委員 今回学習指導要領が変わってポイントは違って来るわけですが、今の教科書と比べると変わったと思われる点は何ですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 教科書の大きさです。他社と違いここだけがワイド版ですね。その分、資料等を多く、大きく掲載できるメリットはあります。工夫の点では、どの社も工夫されておりまして、甲乙つけがたい部分があります。机の大きさもあるので、

○綱川委員 私が子どもの頃、勉強していた時、補助資料として国勢図会とか、参考にしていたりしていたのです。地図に載っていると載っているのでしょうけれども、そういう補助的な教科書との関連というのはどういう感じになるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） これは指導者の判断ですが、多くは補助資料といえますか、資料集を準備して、あるいは地理の場合は白地図などを並行して使っています。先程の資料の新しさの部分が、切り口の違いもありますので、補助教材を使って授業をやることは多くあります。

○綱川委員 というのは、これ、1冊ですよ。何学年ですか？

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 1・2年です。

○綱川委員 2年たつと、資料的にやはり古くなったりする可能性はありますが、それを使って、指導していくということですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 1年生の時に買わせた資料集はそのまま2年生でも使いますので、2年生になって新たにということはありませんが、白地図の場合は、世界、日本と分ける場合があります。

○綱川委員 後々、地図と密接に関係してきますよね。後で聞こうと思っていたのですが、地図と教科書というのは一体なのかなと思ってしまいます。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そんなことはないです。我々の意見の中では、特段、一体化させる必要はないだろうと考えております。

○綱川委員 分かりました。ありがとうございました。

○半田委員長 続きまして、久保田先生に歴史の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それでは、歴史のほうでございしますが、全部で7社ということで、歴史的分野と公民的分野が同じ出版社ということで、さらに3社ずつ加わっているということでございます。各社ともそれぞれ分野は違っておりますが、全体的なつくり、工夫は分野ごとに同じような形になっております。

では、まず東書です。内容の選択のところから特徴を取り上げていきます。イに書きましたが、写真、絵図、図版、地図等多彩な資料を活用して編集しているということ。これもワイド版ということで、大変資料が多くて豊富であるという印象を受けております。

教育出版です。イに掲げましたが、「人物から歴史を探ろう」「資料から歴史を探ろう」など、各

時代の代表的な人物や文化的な資料を多く取り上げ、詳しく紹介しているという特徴があります。

清水です。イに書きましたが、「資料」では、時代に即した代表的な資料を取り上げるよう配慮されているということで、十分な資料といえますか、適量であるということでございます。

帝国も同じでございます、イに書きましたが、重要な歴史的事象については適切に選択されているということで、内容的には十分であるというふうに考えております。

日文です。これはウに書きましたが、実物大の資料を掲載しているところがありまして、昔の貨幣など、資料の提示が工夫されており、文化面の資料も充実している。また、掲載されている資料が新鮮で、生徒に興味・関心を持たせやすいものが多いという特徴があります。

自由社ですけれども、アに書きました。歴史の導入部分で、序章「歴史のとらえ方」を設け、テーマの決め方や調べ方などを詳しく取り上げています。この部分ほどの社にもありますが特にそういう特徴があるということでございます。

育鵬社です。これは、イのおしまいのところを書いてありますけれども、「なでしこ日本史」という特設ページがありまして、女性がそれぞれの時代で活躍したことが記述され、興味・関心を引きつける内容になっております。全時代で15人ほどの女性を取り上げて解説している特設ページを設けているということでございます。

構成・分量ですけれども、東書です。それぞれの教科書の時代による時間の配分を書いてございます。東書の場合、文章による説明が詳細で、理解させやすいという特徴を持っております。

教育出版は構成の部分ですが、現代史の充実を図っている特徴があります。

清水は、アに書きましたけれども、標準的な時間の構成になってございます。

帝国です。特徴としては、ウに書きましたけれども、授業がしやすいように、導入（資料と吹き出しによる課題）、展開（本文記述）、まとめ（チェック&トライ）の流れで構成されている。これはどの社もこういう形ではありますが、帝国はそれが際立っているということで、この「チェック&トライ」はどの分野にもありますが、まとめ、作業という部分で工夫されております。

日文です。イに書きましたが、地図資料を数多く使い、歴史の舞台が日本のどの場所であるかがわかるように工夫され、地理的分野との関連づけが図られている特徴があります。

自由社。ここの各章のまとめにある「歴史豆辞典」は100字で用語解説してあり、言語活動の題材としては活用できる構成になっております。

育鵬社です。毎時間の学習課題では、導入のところでキャラクターの吹き出しと見出しの下にある文章を提示し、目当てを持って学習できるようにしています。

表記・表現です。東書は、サイドの注の部分が大変詳しく書かれているということ。これもワイド版の特徴かもしれません。

教育出版です。これは地理的分野のところでもお話ししましたように、授業で使いやすいような形をとっており、例えば各時間の小見出しがキャッチコピー的に表示され、学習内容をつかめるよう工夫され、生徒に興味を持たせやすいという特徴を持っております。

清水です。表記の仕方ですけれども、本文が「～した」「～だった」という常体というのですが敬体ではない特徴を持っております。

帝国です。ここはアに書きましたが、吹き出しつきのキャラクターの先生、生徒を使って導入部の問いかけをしているという特徴があります。キャラクターはどの教科書も採用していますが、特にその使い方に特徴と工夫があります。

日本語です。これは何と言っても、アに書きましたが、各ページの左に年表のスケールが掲載されているため、毎時間どの時代を学習しているのかをつかませやすく工夫し、活用しやすいということです。これはこの社の特徴ということで、活用できる工夫であります。

自由社。先程の清水と同じで、本文の文末が「～した」「～であった」という常体になっています。

育鵬社です。この特徴は、歴史上の人物の写真やプロフィールが分かりやすく、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されているということです。人物がかなり豊富に込められておりまして、その説明が詳しいという特徴がございます。

最後、使用上の便宜です。東京書籍に戻りますが、語句を使っての説明課題が毎時間の終わりに用意されておりまして、言語活動への配慮が見られるということです。

教育出版。ここも同じ工夫がございますが、アの a、「トライ」というのがありまして、二つの発展的な課題（説明しよう、調べてみよう）を用意してありまして、やはり言語活動や調べ学習ができるように工夫されているということです。

清水です。2 ページで一単元となっており、最初に単元のテーマを明記し、最後にまとめの課題を入れるなど、生徒がみずから興味をもって学べるような記載になっております。

帝国です。見開き 1 ページの右下の「チェック&トライ」はどの分野でも採用されていますが、チェックでは「探してみよう」、トライでは、「～してみよう」という内容で構成し、学習の深化に役立つ内容を取り上げており、特色を持った構成、使用上の便宜になっています。

日本語ですが、毎時間の学習課題が明確で、学習の目当てを持たせやすく、まとめにある「学習課題を確かめよう」は説明と整理がバランスよく記されているということで、授業の目当て、最後のまとめさせるというところが際立って使いやすい部分があります。

自由社です。章ごとの最後のまとめとして、「どんな時代か」という対話形式のページがあり、「意見交換会」の課題を生徒が興味を持って学べるような記述になっており、どんな時代というのを説明できるようにさせることが今求められていますが、ここはそういう学習に使える部分です。

育鵬社です。ここもさまざまな工夫がございます。どの社も単元に番号がつけられておりますが、その単元ごとに 1、2、3 ではなくて、通し番号がついているという特徴があります。1 から 83 までついております。歴史は以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対して何かご質問はございますでしょうか。

○綱川委員 構成・分量のところなのですが、どの時代を取り扱うかということは、重要なことだと思うのですが、帝国はページ表示になっていて、自由社は何も書いていないのです。これでは比較できないかなと思うのですが何かあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 会社が出している趣意書がありますが、そこではページ記載になっておりました。もう少し細かく授業で対応するようにチェックしていけば出てくるかもしれないけれども、帝国のほうはページ記載であったと。

○綱川委員 あと、もう1点。興味があって自由社の見本本をちょっと読ませていただいたのですが、私の本だけかなと思ったら、今見ても、ページがはずれてしまうのです。軽くとれてしまうのです。こういうところまでチェックしていらっしゃるかなと。というのは、教科書は1年間か2年間使うわけですから。そういうこともちょっと考えていただいたほうがいいかなと思いました。繰り返し繰り返し読んだわけではないのですけれども、自分の学生時代とかを考えると、ぼろぼろになると勉強する気がなくなってしまうところがあって、そういうことも結構大事かなと思います。

○澤委員 今、久保田先生から、各社の特徴というのを聞かせていただいた印象なのですが、こうやって各社並べていろいろご説明いただいたのを私なりに受けた印象は、日文が「世界の四大文明」、その次に「宗教の起こり」で、分かりやすいとか、他県の最初に地図で見る世界の動きというページがあり、日本のその時代に世界ではどのような状況だったのかが分かりやすく説明されている。また、各ページの左側に時代のスケールがあって活用しやすいとか、いろいろ工夫されているのかなというのが、ざっと見た印象ですけれども、その辺はそういう印象でいいですね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） どの社もかなり工夫されていて、使い勝手はよくなっております。日文は大阪書籍がベースになっていることもあって、したがって、これまで我々自身がそれほど教科書を見ていない部分もあって、「新鮮さ」と書きましたけれども、生徒の新鮮さというよりも、教える側の新鮮さもあって、資料等もなるほどという部分がありました。ただ、スケールを載せていることはかなりの工夫だという意見は出ております。毎ページに出ているものですから。

○澤委員 確かに、生徒に興味を持ってもらうような、あるいは使いやすいとか、自分で何だろうと教科書を見たときに興味を持たせてくれるような教科書がいいですね。

○小島委員 東京書籍のこの大きさは見た感じは使いやすい感じがしますね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 大きく載っているところはございます。何とも言えないですけれども。

○小島委員 この大きさは今回初めてですか。このワイド版は、各教科書会社が自由につくれるのですか？

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 1社だけですからね。

○小島委員 他の教科で確かありましたね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 国語が1社だけ小さいのです。

○小島委員 ワイドだから見やすいですね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それで全て良いということでもないのですけれども。

○澤委員 時々話題になるのは、小学校ですと、ランドセルに入るか入らないかです。中学生の場合には教科書の大きさは何ら差し障りはないということですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それはありませんが、全体に分量が増えていますので、生徒にとっては厳しいなという感じはありますね。どの教科書もかなり厚くなっていますので。今でも、鞆に入れてくるときに鞆が壊れるという話はききます。

○澤委員 確かに、地元の中学生を朝見ると、何か重そうにかばんを下げていますね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 今がもう限界かなと。

○教育長 資料は要らないですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そうですね。実際に買わせていますが。

○教育長 さっきの地図も相当細かいですよ。あれ、読んでいるだけで疲れてしまうぐらい。

○綱川委員 昔、地図の教科書の後ろの方に載っていた資料が歴史教科書に載っているのですね。

○半田委員長 皆様、よろしいでしょうか。続きまして、公民の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それでは、3年生で学習させる公民的分野の説明に移らせていただきます。

発行社は同じく7社でございます。

まず、内容の選択の特徴的な部分からお話を申し上げます。東京書籍です。ウに書きましたが、写真や資料がページのおよそ半分を占め、豊富なので、中学生にとって分かりやすく掴ませやすい、そんな特徴がございます。

教育出版。ここも工夫されております。内容的には、ウの対立と合意——これは今回の新しい学習指導要領で取り上げられるところですが、公園づくりの課題を取り上げておりまして、身近な取り上げであります。

清水書院ですが、対立と合意の事例では、クラスの合唱曲の決定というところを例として取り上げておりまして、やはり身近な題材を扱っています。

帝国です。対立と合意のところは、マンションの課題を取り上げ、マンションで起こっている問題点やスロープ設置の費用負担等、身近で分かりやすい例示をしてございます。

日文ですけれども、対立と合意は、多くの事例を取り上げております。契約の問題、マンションの課題、育児と家事の問題、球技大会のグラウンド使用の問題など、事例を取り上げています。

自由社です。愛国心というものを取り上げているという特徴がございます。

育鵬社です。ここは、家族に関する扱が多いという特徴があります。対立と合意の事例でも、家族のきずなというようなものも取り上げています。

構成と分量です。東京書籍です。これはイに書きました。年表や移り変わりを示すグラフ、多様な地域の事例資料が多く掲載されております。

教育出版です。資料のレイアウトが授業の流れに沿って構成されています。たびたび申し上げておりますけれども、教育出版は授業に沿った教科書づくりになっているという特徴がございます。

それから、清水ですが、これまでの教科書と異なる特徴というのはございません。

帝国です。構成と分量のところですが、政治・経済のページ数関連ですけれども、経済のバランスが少し高くなっています。また、学習のまとめが問題集的な構成になっているというふうに思っております。

日文です。大きな特徴ではございませんが、資料を読み取らせていく構成になっております。

自由社です。ここは、それぞれのページ数を見ていきますと、国際社会にかかわる部分が少しばかりに多いのかなと、そんなバランス構成を感じております。それから、ウに書きました、用語の解説を側注として掲載し、内容をつかませやすいように工夫しているということで、これはどちら

かという表記の部分に当たるかもしれませんが、そんなことです。また、人物の解説が詳しいという特徴を持っています。

育鵬社ですけれども、「日本の伝統文化」では見開きページで伝統文化を写真で紹介している構成をとっていることが、特徴的なところになっております。

表記・表現。東京書籍です。基本的にページ上に重要な写真等の資料が大きく掲載され、ページの外側に補助的な資料が配置されていて見やすくなっています。

教育出版です。毎回お話ししますように、章、節、項のタイトルが内容を理解しやすいように工夫されているということで、授業に沿った表記の仕方をしています。

清水書院ですが、ここは、「～である」調で、生徒に訴えかける文章になっています。この社だけ特徴を持った表記になっています。

帝国書院です。全般的に読みやすい文章の表記になっております。

日文です。「バリアフリーの社会をめざして」というところで点字が記されている部分があり、具体的に把握させることができるという特色を持っています。

自由社は、小見出しが通し番号になっている特徴があります。

育鵬社です。ここは、ページ上部の資料が割と大きく掲載されていて、分かりやすく配慮された表記・表現の仕方になっております。

最後、使用上の便宜・その他ですけれども、東京書籍です。どの分野も同じですが、「深めよう」のコーナーで発展的な内容が複数取り上げられており、生徒が課題として選択したり、教師が必要に応じて内容を絞って指導したりすることができる構成となっています。

教育出版です。生徒に気づかせたいことや疑問に感じてほしい事柄などを中学生4名のキャラクターを單元ごとに登場させてせりふとして示しているため、生徒が身近に感じることができます。割とキャラクター使いが豊富といたしますか、工夫があります。

清水です。ここは、紙質が鉛筆で書き込みやすいものになっています。表面に光沢がないため、照明直下でも光の反射がなく見やすい。他社に比べてということで、特徴として取り上げさせてもらいました。

帝国です。ここは、どの分野にもあります「チェック&トライ」はなかなか工夫されておりまして、発展的な内容を投げかけているということで、言語活動という部分についてもここは使えます。

日文ですが、ここもさまざま工夫されているコーナーがあります。「金銭スキルアップ」「15歳のハローワーク」などを取り上げました。また、「裁判員裁判シミュレーション」等々、生徒にとって発展的に興味・関心を持たせやすい内容が取り上げられています。

自由社です。歴史上の人物や出来事を多く掲載しており、歴史の学習内容から理解しやすいように工夫しています。人物の取り上げが豊富です。

育鵬社です。「やってみよう」「学習に役立つウェブサイト」が最後のページにあるのですが、これは活用しやすいと思っております。どの社もそれぞれ特徴を持って工夫された教科書であるという印象です。以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対して質問はございますでしょうか。

○小島委員 「対立と合意」というのが今回初めて出てきていますが、この「対立と合意」というのはどういうねらいで取り上げられたのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 今の社会の状況は、対立と合意、効率・公正という概念で成り立っていると。そこについて、事例を取り上げて理解させていくこととなります

○小島委員 公民的分野でそれを言うということは、やはり民主的な合意形成とか、世の中必ず対立はあるわけだから、それを公民としては正しくというか、適切にというか、言ってみれば、公民における人間のあり方とか、人間の尊重とか、そういうようなことを重視してこういう対立と合意という概念が出てきたということですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 委員のおっしゃるとおりです。ただし、世の中は変化しておりまして、日本の社会の中でも対立の部分がかなり多くなって、それをどういうふうに市民が生活しやすいように社会づくりをしていくかという中で、合意形成という部分に着目して、相応の事例を取り上げながら学ばせていきたいということです。

○小島委員 それは、現代社会、政治、経済、国際社会ですか、そのうちの現代社会に入るのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そうですね。

○小島委員 各社のページ数の比較をしています、どのぐらいが一番良いのですか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 教師がそれぞれ年間指導計画を立てますので、全て教科書に沿ってやるということでもありませんので一概には言えません。

○小島委員 特に突出しているというような社はないわけですね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そうです。先程ちょっとお話ししました政治単位と経済単位でどちらにウエートがあるか、多少そういうところはあります。

○小島委員 公民の場合は、人々の幸せな生活というか、人権思想であるとか、あるいはいじめ防止をするとか、そういう身近な、生活における基本的な身につけ方、態度というものが大事だと思いますが、そこら辺の観点から考えると、各社ともどうなのでしょう。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そうですね。特段、それについての問題になります。際立っている特徴があるということではないので、教師サイドの取り上げ方の問題となります。

○小島委員 分かりました。

○綱川委員 清水書院の使用上の便宜・その他のところに、先程久保田先生もご説明してくださったのですけれども、紙の件と光沢の件が書いてありますね。それは、歴史の教科書も、同じことなのですね。それで、我々が考えるに当たって、社会科の教科書に書き込みをしやすいというのは重要な要素になるのですか。紙質を見ると懐かしい感じがしますね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 白いところがちょっと反射するというような感じはあります。

○教育長 育鵬社の14ページに「日本の伝統文化」という、色々な信仰、武道、芸道、美術、工芸、芸能などの写真が細かく載っています。ちょっと違和感があったのは、その芸道のところで、香道はかぐので顔が出ているけれども、書道は顔がない。茶道の写真は首から上がらないですね。手

元を強調したいというのは分かるのですが、たいへん違和感を覚えます。先生はどう思われますか。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 今、改めて見まして、教育長のおっしゃるとおりだと思います。

○教育長 手元を強調したいというのは良く分かるのだけれども、書道というのは、背筋の美しさとかあったりするので、全体を写真で撮ったほうがいいのではないかと思うのですね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） 顔を消しているわけでもないのですね。

○教育長 顔を消しているわけではない。内容にはあまり関係ないのかもしれないけれども。香道は、かぐので、顔を出さないということに違和感を感じましたので一言申し上げました。

○半田委員長 続きまして、久保田先生から地図の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） それでは、社会科の最後になりまして地図でございます。

地図は2社が発行しております。東書と帝国でございます。まず、内容の選択の特徴的なところは、東京書籍は、これは内容の選択というよりも表記・表現のほうに入れたほうがよかったかもしれませんが、イの2段落目、地図帳ページ右下に地球儀の絵が入っておりまして、地球上のどの位置に当たるのかを分かりやすく掲載しており、これは特徴になっております。地図ですので、内容の選択の点でそれほど大きな違いがあるわけではないのですけれども、ちょっとそれを感じています。

帝国は、挿入されている地図資料が同サイズで区別されておまして、明確なので見やすい。また、世界の州ごとに人口分布図が掲載されており、これは資料として活用できます。また、世界の州別の資料図は鳥瞰的な視点であらわし、地形のイメージがしやすく分かりやすい特徴があります。

構成・分量です。東書は、世界に比べ日本のページ数のほうが多い。

帝国は、日本地図55ページ、世界地図51ページでほぼ同様でございます。

表記・表現。紙質と言いますか、印刷の状況なのですけれども、東京書籍は、光沢のないマットな紙質であり、色彩は落ちついているという特徴を持っています。それに対して帝国は、全体を通して鮮やかな色調、コントラストが強いという部分があります。どちらが良いということではありませんが、そういう特徴を持っています。

使用上の便宜・その他です。東京書籍は、アですけれども、小・中学校の接続に配慮し、「地図でスタート」を巻頭に設け、地図帳の使い方をしっかり説明しているということがございます。帝国のほうは、イに書きましたけれども、帝国は、東書に比べ、ワイド版の地図ということになりまして、これは見やすく活用させやすいのではないかと。それから、巻頭の地図の使い方の説明が丁寧で分かりやすい。それぞれそのような特徴を持った地図帳でございます。以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 毎回、地図は2社のどちらの色が見やすいかという議論となりますが、色調は変わっていないですね。

○教科書選定研究委員会委員（久保田） そうですね。

○小島委員 私は帝国書院のほうがいいと思います。

○**綱川委員** 内容ではなくて大きさの問題なのですけれども。

東京書籍というのは、ほかの社会の教科書は三つともワイド版ですよ。地図はワイド版ではなくて、帝国のほうがワイド版ですよ。情報量的に違いはありましたか。

○**教科書選定研究委員会委員（久保田）** 情報量。それはそれほど変わらないですが、ただ、帝国のほうが、先程お話ししましたように、人口分布図が入っていたり、ワイド版の特徴も生かされているのかなという気はしております。

○**教育長** 先程も同じことを言っているのですけれども、この地図帳と教科書があればその他は要らないのではないですか。白地図は別としても、それ以上は扱えないのではないかという気がするのです。扱いきれないですよ。

○**小島委員** 港区の何とかという資料がありませんでしたか。

○**教育長** それはまた別です。ですから、そういうものがたくさんあるのですよ。そうすると、余分なものを購入させないようにしなければならないのではないのでしょうか。ないなら、もちろん購入しなければいけないし、その時間を充実させなければいけない。しかし、あまりありすぎると、逆に言うと充実できないということがありますよ。そういう意味では、地図などはもちろん資料的なものなので、中身が充実していないといけません。私も小島委員と同感です。

○**半田委員長** よろしいでしょうか。

議事の運営上、ここで委員会を休憩させていただきます。再開は午後1時といたしますので、よろしく願いいたします。

(午後12時00分)

(休憩)

○**半田委員長** 休憩前に引き続き、委員会を再開します。

なお、佐藤学務課長はまちづくり・子育て等対策特別委員会へ出席のため、欠席の申し出がありましたので、ご報告いたします。

(午後1時00分)

○**半田委員長** それでは続きまして、渡邊常次校長先生、「国語」の説明をお願いします。

○**教科書選定研究委員会委員（渡邊）** 青山中学校の渡邊でございます。国語からご説明します。

題材について、「少年の日の思い出」とか「走れメロス」等、充実した作品が載せられています。読書に関しては、読書案内を一部抜粋して、写真と紹介文の両方が配置されて、工夫があり、非常に見やすいです。

続きまして、学校図書です。学校図書の読書の多様な種類の文章が多様な分野の作品を取り上げております。読書に関しては、読書紹介やそういう推薦図書のコーナーがなく、ほかの出版社と違ってあります。特徴なのが、近代小説、芥川龍之介の「少年一海」という作品とか、鷗外の「木精」

という作品を取り上げておりますが、これは珍しいと思います。

続きまして、三省堂です。伝統的な言語文化や近代のすぐれた作品を積極的に取り入れております。読書においては、「私の本棚」が單元ごとについていて、読書指導がしやすくなっております。別冊の資料編が充実しております、多様なジャンル・分野の作品を多く取り入れております。

続きまして、教出です。「少年の日の思い出」「走れメロス」「故郷」などの作品が収録されております。読書指導に対しては、「言葉のとびら」に各学年の読書案内があります。それと、「読書への招待」ということで、近代作家、代表作家のそれぞれ有名な作品が取り上げられております。

続きまして、光村です。「握手」、あるいは「大人になれなかった弟たちに」等の、昔から光村が掲げている作品が取り上げられる一方で、浅田次郎さんの「蟬の声」などの現代作家の書き下ろし作品も各学年に配置されております。読書については、「読書案内」、あるいは資料編に各学年の「お薦めの本」が掲載されております。

続きまして、構成・分量でございます。東書は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に対してですけれども、割と短い、トレーニング的な技能練習をする教材と、比較的長時間、3時間から5時間ぐらいでしょうか、そういうふうな言語活動を必要とする大学習材と分かれておまして、これが特徴的だと思います。

学校図書。教材数が非常に豊富であること、それと、読むこと、いわゆる読解力に重点を置いております。これがバランスよく各領域に配置されております。

続きまして、三省堂です。三省堂は、2分冊3部構成になっておまして、別冊・資料編がついているのが最大の特徴であると思います。それと、教科書のほうなのですけれども、伝統的な言語文化が各学年に配置されていますけれども、最初のほうに古典を配置しております。この構成は多分初めてのことでないかと思います。

続きまして、教育出版です。教育出版は、国語科の領域に沿って学習材が配列されて、この学習は系統的で非常に明確であると思います。これは非常に特徴的なことだと思います。

続きまして、光村です。全体的に構成・配列はバランスがよくて、文学的な教材、あるいは説明的な文章ともに充実しております。

続きまして、(3)の表記・表現になります。東書は、写真や挿絵が適度に使われていて、全体的に非常に読みやすくなっております。

学校図書です。平和教材の中で「目撃者の目」という作品があるのですけれども、そこに写真とか文章表現等の割と強い印象のものがあります。

三省堂です。カラーページが多く、文字のフォントが大き目で、全体的に読みやすくなってます。

続きまして、教育出版です。写真、表、グラフ、地図など、色とデザインが工夫してあって、見やすく、分かりやすい紙面になっております。

続きまして、光村です。挿絵等にカラーを多用して見やすく工夫されておまして、全体的に落ちついた紙面になっております。

最後、使用上の便宜です。東書ですが、bのところ、生徒に身近な池上彰さん——テレビにも

よく出ていますけれども、「ニュースの見方を考えよう」、あるいは、人気のある重松清さんという方の「卒業ホームラン」、そういう心に響く作品を取り上げております。

学校図書です。段階的な活動を通して、読解力の強化を目指しております。習得教材、活用教材、探究教材という順にありまして、最後、自己評価というふうな学習の流れになっております。

続きまして、三省堂です。先程ご紹介しましたが、別冊になっておりまして、これが他社と大きく違っております。この資料編にいろいろな発展学習ができるような形で作品が載っております。これは、さらに言語文化編、情報活用編、事典編というふうに分かれています。便覧としても使えるのではないかと思います。

続きまして、教育出版です。bのところ「メディアと表現」という単元があるのですが、これが全学年に配置されていて、生徒の興味・関心を引きつけるのではないかと思います。

続いて、光村です。bのところ、巻末に「学習を広げる」というところがあるのですが、これで自学自習というか、自分で学習するときの参考になり、あるいは他教科の関連においても有効であると思います。以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますか。

○教育長 焦点はこの別冊というものなのですが、別冊というのは本当に使いやすいのか、それとも使いにくいのか、どうなんでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 各社見てみますと、巻末の資料を何とか工夫して発展学習に使いたいというところが多分にあると思います。それを思い切って三省堂は別冊という形にしたのだと思います。例えば「少年の日の思い出」とか、そういう名作を思い切って別冊のほうに入れて、子どもたちがいつでも読めるような形にしています。ある意味では画期的だと思います。

○澤委員 今回の教科書との比較は分からないのですが、ちょっと分厚くなっているような感じもするのです。そういう中で、学校図書の読書指導に関する教材の取り上げ方の「読書紹介や推薦図書などのコーナーが少なく」というのは、これは学図の意図が何かあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 一応編集方針だと思うのですが、読解力と思考力というのが学校図書の特徴です。いわゆる「読む」という領域に非常に力を入れていまして、作品も一番下のところに「段階的な」と書いてありますが、習得教材、活用教材、探究教材、これは全部読みの教材なのです。ほかの領域の「話す」「聞く」とか「書く」とかというところも他社よりも若干少なくて、読みに重点を置いているということでは多種多様な教材が取り上げられています。

○小島委員 去年、小学校の国語のときに、普通の文章の読解と、プラス、非連続テキストという表をいかに読み解くか。それが混然一体となって両方重視しなくてはいけないということがありましたが、中学で言うと、文章の読解はもちろん全部あるけれども、いわゆる非連続テキストという、表とかいろいろなものを読解するというのはここには見当たらないようですが、それはいいですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 確か、光村なども扱っていると思います。表とか図を使って、自分でプレゼンするとか、そういうふうなことも内容的には会社によっては含まれています。別冊の中にもそういうふうな、グラフを使った考え方や、情報の収集の仕方などを掲げているかなと思います。

○澤委員 今、小島委員が言われたように、国語に関しては非連続テキストをかなり重視しました。OECDの調査などで、日本は表とかグラフの読み方とか、そういうものが弱いと。そこに重点を置いたような教科書づくりになっていましたね。

○小島委員 小学校の国語の教科書は、結構それは話題になっていますね。

○澤委員 確かに、渡邊先生が言われているように、光村図書の2年の教科書などには、発表事例を工夫しようとか、プレゼンテーションをするとか、そういうことも取り上げているので、せっかく小学校でそういうことをやっているのだから、連続性から言っても、中学でもさらにその辺の力がつくと良いですね。

○小島委員 今報道でよく使われるマイクロシーベルトなどの表が分かりづらいですね。こういう表の読解を沢山中学校でやったらどうでしょうか。

○教育長 港区でも、今、お台場学園が小中一貫教育校で、平成27年から朝日の小中一貫教育校が開校します。それから、今、校長会でも小中一貫教育ということで宣伝してもらっているのですが、教科書会社の連携というのか、去年、小学校の教科書を採択した時に、算数でも、国語でも、小学校の教科書が中学校に上がるときにその連続性というのをかなり意識して作っているですね。港区の学校は今、小学校と・中学校では違う教科書会社を使っていますが、このような連続性を考えたときに、同じような教科書会社のほうがいいのではないかと私は単純に思っているのだけれども、その辺はどうですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 本当はそのほうが連続性もあり、きっちりできるとは思いますが、ただ、小中の接続の中での学びということは、各社、編集面で考えているとは思いますが。高校の接続も一緒なのですから、かなり意識しながらやっているというのはあると思います。だから、教科書会社自体が、例えば三省堂、光村というところでは、小学校も中学校もとなれば、より緊密な連携というか接続はできるかなとは思いますが。

○綱川委員 この選定資料の光村図書の構成・分量というところに、プレゼンテーションや手紙、レポートなど、普段の生活のためのことがよく書いてあると書いてあります。例えば、東書と光村は、手紙の書き方とかよく書いてあるのです。多分、中学の教科書というのは、これから生きていく上で、バイブルみたいに、とっておくという人もいると思うのですけれども、その辺で、そういう使い方というのはありますか。私はそういう風にしていたのです。この二社は、細かく、手紙の書き方までよく書いてあるのです。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 基本的なところは、書写などもそうですけれども、実生活にどのように還元して生かしていくかという視点で作られている部分もありますので、プラス、先程のレポートの書き方とか、ノートのとり方とか、メモのとり方とか、そういうことが他教科にも影響し役立つ面もあります。今後はそういうものを基盤に立体的に生徒が学んでいくということは大切です、今お話があったように、とっておいて、後で読んで、手紙はこういうふうにくんだというような、実用的な部分も多分あると思います。

○澤委員 国語というのは、今ちらっとお話が出たように、あらゆる教科というか、我々の生活とか社会における活動の基本になっていて、そういう意味では、単に読解力だけではなくて、先程の

ようなグラフとか図とかを読み取る力が必要だと思います。そういう総合的視点から見て、この出版社はちょっと工夫されているとか、そのような出版社はありましたか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 教育出版です。先程O E C Dの調査で図や表の読み取りが弱いという話がありましたが、苦手で、なかなか文章が書けず、空欄で出してしまう生徒もいます。今、私などが思っているのは、全教科に必要な「話す・聞く」の中の「聞く力」というのが、子どもたちは小さいころから育っていないのではないかと思っているのですね。そういう面では、教育出版は、「話す・聞く」という領域で、他社でもう1社ぐらいあったかと思うのですが、「聞く」から入っているのですね。「聞く力」を非常に重視して、「話す・聞く」の領域をやっているというところは、特徴的かなと思います。

○澤委員 そういう視点で見ると、その下にあった表記・表現。同じく、教育出版の表記・表現のところで、「写真、表やグラフ、地図などの色とデザインを工夫してあり」というようなところも関連するのかなと思います。先生が言われているように、大学生が例えば卒業論文とかの発表会とか面接に行ったときに、質問の意図がはっきりつかめなくて、的確な答えができないということがあります。確かに、人が何を言っているのかとか、話す力、聞く力をつける訓練というのも大事ですね。読解も広い意味ではそういう力にも結びつくのでしょうか。そういう意味では、最近では、パネルディスカッションだとか、生徒同士の話し合いとか、他の子はどう考えるかとかいうのを、学校としても、そういう訓練はもちろん最近していただいているのでしょうか。

○半田委員長 澤委員と似ているかもしれませんが、義務教育の範囲で当然知っておくべき日本の名作とか、おしゃれな手紙の書き方とか、基本的なことも載っていて、あとは、ちょっと深めて読むところと、両方バランスがあると思うのですが、教える先生が、ここは知識として習得してほしいところ、ここは聞く力、読む力、もっと読み込む力、聞いて相手の気持ちを察知する読み方、聞き方というものを深めていく、そのような観点で使いやすい教科書はどれだろうと思うのですが、先生の授業の仕方で使いやすさというのはまた変わってくるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 変わるとは思いますし、教材が子どもたちにとって一番心打つというか、あるいは説明文で言えば、おもしろいとか、興味・関心を引くとかいうのは、7割、8割方、その教材・題材にかかっている部分というのはあると思います。

○半田委員長 作品そのものが持つ力が大きいと。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） そうですね。大きいと思います。文法的なものというのは大体決まっておりますので、知識として入れなくてはいけません。作品はそれぞれの魅力が違うので、そこはやはり一番大きいところです。

○半田委員長 よろしいでしょうか。続きまして、渡邊先生、書写の説明をお願いします。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） では、内容の選択から。東書からさせていただきます。アの下の方にありますけれども、毛筆教材も中学生にとって親しみやすい平易な言葉を取り上げていて、分かりやすいと思います。

大日本ですけれども、毛筆と硬筆を見開き2ページにまとめて、1時間で学習できるように工夫されています。

学校図書です。毛筆教材のすぐ後に硬筆教材を配置して、関連指導がしやすいかなというふうに思います。

続きまして、三省堂です。三省堂は、硬筆教材を重視している、力を入れているのが特徴です。書き込み欄を多く設けて、教科書の中で硬筆を中心とした書写技能を修得させる、そんな配慮が見えます。

教育出版です。アの下の方なのですけれども、これも、硬筆・毛筆教材ともに、基礎・基本に重点を置いております。

光村です。毛筆で確認した後、硬筆でさらに確認して、そして、別の文字を書いていくというゆとりある学習の流れになっています。

続きまして、構成・分量です。東書です。毛筆で学習したことを硬筆で生かして、さらにそれを日常生活、学校生活、あるいは他教科で活用できるように構成されています。

大日本です。基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視して、毛筆書写は硬筆書写の基礎であるということを留意してつくられております。

学校図書です。3年で1冊となっており、無理なく効率的な流れの構成になっております。既習内容を振り返らせるときには使い勝手がいいのではないかと思います。

続きまして、三省堂です。先程申し上げましたように、硬筆学習に生きる毛筆学習という視点、あるいは立場でつくられ、構成されております。

続きまして、教育出版です。硬筆での「試し書き」から始めて、考えるポイントを示して、そこでまた毛筆に入って、「生かそう」というコーナーで定着を図って、最後、自己評価という学習の流れになっています。

続いて、光村です。基礎・基本の定着に重点を置いて、3年間分これも学図と一緒にのですが1冊に編集されています。毛筆、硬筆ともに、必要に応じて既習事項の確認ができるという点では使い勝手がいいと思います。

続きまして、表記・表現です。東書です。硬筆、毛筆ともに、手本は癖のない、しかも切れのある美しい筆使いになっています。

続きまして、大日本です。楷書では、硬筆によるなぞり書きを、行書では、対比のために楷書を示して工夫がされています。

続きまして、学校図書です。筆順や字形の説明がとても丁寧で分かりやすい。誤りやすい筆順例も充実しております。幾つかそういう漢字を設けて、正しい筆順というのですか、そういうところにこだわっております。

続きまして、三省堂です。三省堂は、硬筆、毛筆ともに、穂先の動きを示した図版があるのですけれども、非常に分かりやすくなっています。

教育出版です。平仮名、片仮名も含めて筆順が丁寧に示されています。

続きまして、光村です。ウのところですが、**「資料」**は、日常の学校生活、あるいは社会生活に役立つ内容が、大変分かりやすく説明、あるいは理解しやすいような図版によって示されています。

最後に、使用上の便宜です。東書からです。日常生活、学校生活に生かせる具体例がたくさん載っております。

大日本です。これも、「生活に生かす書写」というコーナーがあるのですが、ここで発展的な学習につなげられると思います。

学校図書です。「書写便利図鑑」というものがあるのですが、そこで発展的な学習として利用価値があると思います。

続いて、三省堂です。「資料編」は、総合的な学習の時間や他教科との関連の中でも十分活用できると思います。

続いて、教育出版です。「補充教材集」を習熟度、あるいは課題に合わせた発展教材として活用できると思います。

最後に、光村です。「ジャンプ」、あるいは「広げよう」というコーナーがあるのですが、これは総合的な学習の時間や他教科との関連の中で活用できる。とても充実していると思います。

以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対して何かご質問はございますでしょうか。

○小島委員 毛筆と硬筆を一遍に1時間で教えるとか、色々あるようなのですが、毛筆がまず基礎・基本になって、その後、硬筆を習うというのが正しい順序だと。その場合に、毛筆と硬筆、1時間で両方やるというような、毛筆をやって、硬筆をやって、一緒にやるのを繰り返していくのと毛筆は毛筆、硬筆は硬筆で進めていくのとどっちがいいのですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 考え方によると思いますけれども、毛筆と硬筆を一緒にやるというのは、毛筆の準備のことを考えますと、1時間の中で分けて、前半は毛筆、後半は硬筆というやり方はなかなか難しい面があると思います。織り交ぜながらやる方法もあるとは思いますが。

○教育長 これは昨年小学校の教科書採択の時にも聞いたのですけれども、中学校の通常の国語の教科書と、この書写が同じ教科書会社でないといけないとか、そういったことはありますか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 基本的には関係ないと思います。書写は書写で独立していると思います。ただ、ここにもちょっと載せましたけれども、硬筆で関連教材を使っているところがあります。自社の教科書の小説から一節を持ってくるとか。子どもたちにとっては親しみやすいと思います。ただ、そこまでどうかというようなところはちょっとありますね。有名な古典とかそういうものを硬筆として使っているというのであれば、それはそれで独立した形で良いのではないかなと思います。

○教育長 選定資料にも、国語の教科書に取り上げられている教材というのでやっているの、指導しやすいのではないかという記述がありますね。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） そうですね。指導しやすい場面はあると思いますが、基本的には、国語の教科書とは独立した形で「書写」は編集されています。ですから国語の教科書とは独立した形で見ていただいているのではないかと思います。

○小島委員 現代社会では圧倒的に毛筆を使う場が少ないと思いますけれども、中学校で教える毛筆と硬筆は時間割合はどんな感じになるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） そうですね。その指導者によるとは思います。教科書によっては硬筆に力を入れているところもあります。

○小島委員 現代社会では毛筆でというのはそう多くないですね。

○教科書選定研究委員会委員（渡邊） 各学校、席書会とか書き初めとか、そういう取り組みも行事としてやっているの、伝統文化ということであれば毛筆も大切にしています。

○半田委員長 よろしいでしょうか。それでは、続きまして、上野眞理子先生、数学の説明をよろしくお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（上野） では、内容の説明からまいります。東京書籍は導入が丁寧で、具体的に書き込む作業を入れ、これからの学習内容について学習意欲を喚起している。例示→たしかめ→問いと流れが分かりやすく、スモールステップで確認しながら学習することができます。全体として、丁寧できめ細かい配慮があるというところが特徴です。

大日本図書は、理科に関する内容が比較的多く取り扱われているところが特徴です。例えば気温とか、樹木の高さなど、そういうものです。

次に、学校図書。説明重視の問題の解き方になっているため、言語活動の充実が図れる扱いになっています。例えば、「考えを説明してみましょう」という問いがあちらこちらにあり、生徒が自分の言葉で説明をして答えるという形を意識して取り入れています。

次の教育出版には、「気をつけよう！」というコーナーがあり、わざわざ誤答を示して、その誤答が生じた理由を考えさせることによって学習内容の理解を深めていく、ねらいを持っています。

次は、啓林館です。啓林館は、導入が生徒の興味を引きやすく、考え方をていねいに説明しています。また、導入→例題→問いの流れに無理がなく段階別になっているので、分かりやすく流れが自然であるところが特徴です。

数研出版です。こちらは、巻末に「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」という総復習のページがあります。問題量が豊富で、習熟度別の指導に使いやすい内容となっております。

そして、日本文教出版です。項の先頭に適宜掲載されている「確認」というコーナーがあり、既習事項を振り返る効果的なポイントとなっております。それから、例示→問い、章末の問題がレベル別に段階を踏んだ、スモールステップになっているため分かりやすくなっています。また、コンピュータの活用を各学年で扱っているというところも特徴です。

では、構成・分量にいきます。東京書籍。各章の問題数は、全生徒が共通に取り組む問題数として適切です。この教科書は、多少、単元の並びがほかの教科書と異なっています。三平方の定理が割と早目に入っています。通常は後ろから2番目に入っていますが、割と早目に入って、活用範囲が広いということ考えた上の配置だと思えます。

大日本図書。こちらは、章末問題のすぐ後に解答が載っていますので、生徒がやった後すぐに確認できるという利点がございます。それから、各問題の横に1、2問補助問題があります。早くできた生徒は、その補助問題に取り組めるという配慮がしてあります。

学校図書です。各章の問題数は全生徒が共通に取り組むのに適切な量になっています。目次に小学校からのつながりが分かる吹き出しが載っていて系統性が分かりやすくなっています。反復、ス

パイラル学習。小学校のときから、何回か学習し中学校でもレベルを上げて学習するものが数学では結構ありますので、思い出しができる良さがあります。

教育出版です。単元前に既習事項の復習問題があるので丁寧です。それから、章末問題で、評価の観点が記載されています。この問題はどのような評価の観点で出題されているかということを生徒がわかるようになっています。

啓林館です。巻末の「くり返し練習」で問題数を補充しているのが良いです。それから、章末の「基本のたしかめ」では、学習の振り返りができるように、この問題が出ていた関連ページは教科書のどこですよというページが示されていて、配慮があります。

数研出版。こちらは、「確かめよう」「基本問題」「章の問題A、B」と問題量が大変豊富です。「チャート式の数研出版」というふうに教科書見本のカバーにも書いてあるのですが、問題集、参考書を作成している会社だけあって問題数が充実しております。

それから、日本文教出版です。練習問題の量は授業で扱う分量として適切です。練習問題がA問題、B問題、とりくんでみよう、と3分割されていて、習熟度別指導に扱いやすいという特徴があります。

では、表現・表記になります。東京書籍です。全体的に記述が丁寧です。説明がノートの書き方をイメージして書かれていて、生徒がノートに書きやすくなっています。また、1年生の初めにはノートのとり方に関するアドバイスが載っていて、ノートのとり方がわからない1年生にとってはとても分かりやすくなっています。

大日本図書です。これも、説明などが見やすく、文字の大きさも適切である。イのほうですが、解答例が板書風で見やすい。緑地に白で書いてあるということです。

学校図書。項の開始が原則見開きで左ページにあり、図も大きくて見やすいです。それから、色使いが他社に比べて比較的少なく、シンプルなつくりとなっています。やはり、例題の解答が板書形式で分かりやすくなっています。

教育出版です。既習事項を学習した学年が明記されています。つまり、これは3年生で勉強しましたねということが分かるようになっています。それから、解き方や解答例の説明が見やすいです。

次に、啓林館です。既習事項の確認が必要な場面に、「ふりかえり」という形で設定されています。それから、考え方の部分の説明が丁寧で分かりやすい。

それから、数研出版。紙面全体の表記・表現は見やすいです。文章題では、問題を解く手順が分かりやすく示されています。また、挿絵や写真は必要以上に載せていないので、とてもシンプルで見やすい紙面となっている。

日本文教出版。各章末にある「くり返し練習」は学習の定着に効果的です。公式や解答例など、ポイントの部分がカラー字になっていて、見やすく、表記も分かりやすくなっています。また、比較的絵が多く、温かみのある紙面となっております。

最後に、使用上の便宜・その他で、東京書籍。発展的な内容は、身近にある数学を取り上げており、生徒の興味・関心を引く内容となっています。

大日本図書。こちらは、巻末に「マスフル」というページがあり、大変充実していて、「マス」は

「数学」、「フル」は「いっぱい」、「数学がいっぱい」ということなのですが、家庭学習や数学のエピソード、レポートの書き方等、発展的な取り組みがとても充実しています。

学校図書。これは、「課題学習・自由研究のページ」というものが巻末にあり、グループ学習や個人学習に活用することができます。「深めよう」というコーナーに『さらに発展的な内容ですよ』という意味の発展マークが示されていて、他と区別しやすくなっています。

教育出版です。発展的問題を巻末にやや多目に扱っています。「ジャンプ」とか「自由研究」「チャレンジコーナー」というページがあります。

啓林館。巻末に「くり返し練習」「数学広場」等があり、個に応じた指導、習熟度別の指導に適していると思います。「数学広場」に発展的な内容も含まれていて、生徒の興味・関心を引く内容が扱われています。

数研出版。各章末にある「B問題」は数学的な見方・考え方を伸ばすのに効果的な発展問題がそろっています。少しレベルの高い問題がそろっているということです。

日本文教出版。各章末の「とりくんでみよう」で発展的な問題が提示されております。それから、bのところ、「数学を勉強するみなさんへ」というコーナーでメッセージとして登場する人物が各学年異なり、メッセージ内容も学習意欲を喚起するものとなっています。

以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対しまして、ご質問はございますでしょうか。

○小島委員 数研という教科書会社はあまり聞かないような気がするのですが、前からありましたか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） 今回が初めてです。

○小島委員 どんな会社なのですか。

○教科書選定研究委員会委員長（田邊） 高校の数学の教科書では圧倒的なシェアです。

○小島委員 そうですか。

○教科書選定研究委員会委員長（田邊） チャート式という問題集の会社です。

○小島委員 そうすると、他の会社と比較してレベル的にはかなり高いですか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） そうですね。教科書ですから、難しい問題ばかりではないですが、問題数が比較的多いですね。あと、参考書的内容になっていて、章の初めに「まとめてふりかえろう」というコーナーがあるのですが、そこに今まで習ったことが全部網羅されています。参考書的な要素もある。

○澤委員 内容の選択のところの大日本図書が、先生のご説明にもあったように、理科に関する内容が多く取り扱われていて、理数教育という視点での数学というスタンスが感じられるようなコメントになっています。この辺は、私なんかは、数学は数学とか、理科は理科とか、高校へ行ってもそういうようなスタンスで教科書というのはくくられがちなのですが、本当は有機的にみんなつながっているんで、数学を学ぶと理科のこういうことに応用できるとか、理科のことを考えるとこういう数学が必要なのだというような視点はものすごく大事なことだと思うのです。この中学校の段階でこういう取り上げ方というのは、有効なのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） 例えば、1年生の最初に正の数、負の数という章があります。そこで世界各都市の同時期の最高気温、最低気温を示して、プラスマイナスを確認する課題があり、東京で桜が咲く時期にモスクワは零下の気温だとかシンガポールは真夏の気温だとか、緯度や気候による気温の差を理科的に押さえたりしています。

○澤委員 なるほど。そういう身近なところから。

○教科書選定研究委員会委員（上野） そういうごく分かりやすい題材もありますし、例えば、大日本図書だと、「社会にリンク」というコーナーがあります。ここで、例えば地球温暖化について研究している人のコメントがあり、そのときは数学をこんなふうに使っていますよとか、音や振動を電力にかえるエネルギーを研究している人の話を掲載したり、子どもが興味を引くような、内容を書いてあるコーナーがあります。このようなことが理科と関連する部分でもあります。

○澤委員 中学生あたりから、子どもによっては数学が嫌いとか、そういう子が出やすい時期ですから、そういうときに、生徒に興味を持って数学に取り組んでもらうというのもすごく大事な視点なのだと思います。

○教科書選定研究委員会委員（上野） その興味・関心を数学の学習に結びつけていくのが教員の力量ではないでしょうか。

○澤委員 詰め込みが大事だと言う話もありますが、私は興味が大事だと思っております。

○小島委員 まずある程度基礎の力を徹底的に詰め込んで、それを応用していく、分析したり、判断したり、考えさせたりという深い考えを持っていたほうが正しく理解できるのではないのでしょうか。

○澤委員 中学あたりから、もう興味を持たなければ、親が何を言おうが、先生が何を言おうがやらないわけです。もちろん、大人もそうですけれども、子どもによって、これはすごく興味があるとか、これは残念ながら興味はないという、その好き嫌いはあってもしょうがないのですけれども、できれば興味を持って取り組んで欲しいと思います。特に数学なんかは。そういう意味で、理科とか社会の現象と数学を結びつけるというのは、確かに大事な視点なのですね。

○小島委員 澤委員が言ったように、数学というのは中学1年、2年でつまづいてしまうと本当にどうしようもなくなりますし、また、つまづきやすいのですけれども。今、内容の選択のところでは啓林館を見ますと、ほかのところでも「丁寧」という言葉があるのですが、啓林館だけは「考え方を丁寧に」と。それから、「丁寧に教えて分かりやすい」という言葉がたくさん書かれています。啓林館というのは、そういう意味では非常に丁寧に分かりやすく教えているということでしょうね。「丁寧」という言葉が多い。

○教科書選定研究委員会委員（上野） はい、とても丁寧です。流れがとても自然で分かりやすいのですが、若干丁寧すぎる場所もあります。学力が高い生徒は多少“くどい”と感じるかもしれませんが、基礎の生徒にとっては大変分かりやすい表記になっております。

○小島委員 数学の場合、少人数教育でやる場合が多いですよ。少人数教育の場合にでも使い勝手がいいというか、使いやすいという点からいくと、各教科書はどのような感じでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） そうですね。習熟度別指導で使えます。色々なレベルごと

の問題が、以前より豊富にどの教科書も整っていますので。

○教育長 先程と同じ質問なのですが、特に数学は、小・中のつながりというものを非常に考えなければいけないと思うのです。そういう意味で、教科書会社が同じほうがいいのか、それとも同じ教科書会社でも、小学校と中学校では、その編集の方法なり、そういうものが違うのであまり関係ないと思われるか。それはいいですか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） やはり同じ教科書会社のほうが、生徒にとってはつながりが分かりやすいと思います。

○教育長 なじみやすいと。

○教科書選定研究委員会委員（上野） はい。

○教育長 それからもう一つ。それぞれいろいろな特徴があるのでしょうかけれども、構成・分量の啓林館の構成・分量のところ、アのところ「章の順番の組み方がよい」と書いてあるのですが、これはどういうことですか。

○教科書選定研究委員会委員（上野） 一般的な組み方です。東京書籍が単元の順番がちょっと変わっていたのですが、そのようなことはなく、通常の一般的な組み方が入っているということです。

○教育長 では、他社もそう変わらないということですね。

○半田委員長 よろしいでしょうか。それでは、続きまして、伊藤俊典校長先生に理科のご説明をお願いしたいと思います。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 赤坂中学校の伊藤です。よろしくお願いいたします。

私から理科の説明をさせていただきます。

最初に、内容の選択についてです。東京書籍は、実験の取り上げ方は、写真を多く使い、分かりやすく説明しています。野外観察は、身近な題材を取り上げています。安全への配慮では、図や記号を取り入れて示し、丁寧に説明しています。また、実験結果についての解説が丁寧に分かりやすいです。

大日本図書は、実験の取り上げ方は、観察や実験が行いやすい内容を多く取り入れています。野外観察は、身近な題材を取り上げています。安全への配慮では、目立つマークと色で安全に配慮しています。また、観察・実験についての解説が丁寧に分かりやすいです。

学校図書は、実験の取り上げ方は、図を多く使い、分かりやすく説明しています。野外観察は、身近な題材を取り上げています。安全への配慮では、注意する点については図や記号を取り入れて示しています。また、観察・実験結果についての解説が丁寧に分かりやすいです。

教育出版は、実験の取り上げ方は、身近な事象を観察・実験に取り上げています。野外観察は、写真を用いながら、分かりやすく観察方法を説明しています。安全への配慮では、目立つマークと赤字で示し、安全に配慮しています。また、観察・実験結果が丁寧に分かりやすいです。

啓林館は、実験の取り上げ方は、身近な題材を取り上げ、生徒の興味・関心を喚起しています。野外観察は、観察方法を図や写真を使って分かりやすく説明しています。安全への配慮では、マークをつけたり、朱書きして配慮しています。

次に、(2)の構成・分量についてです。東京書籍は、教材の配列は、身近な内容から学習を進め、

疑問から観察・実験へと導き、課題を解決させる構成になっています。1・2分野がまざって配列されています。各項目間の関連は、関連内容を「思いだそう」で示しています。全体的な分量は適当です。また、科学が社会や生活に役立っている例を示しています。

大日本図書は、教材の配列は、身近な内容から学習を進め、疑問から観察・実験へと導き、課題を解決させる構成になっています。1・2分野がまざって配列されています。各項目間の関連は、関連内容を欄外に示し、丁寧に説明しています。全体的な分量は適当です。また、各単元の章末に要点の整理と練習問題を設けています。

学校図書は、教材の配列は、身近な内容から学習を進め、課題を解決する構成になっています。前半に1分野、後半に2分野が配列されています。各項目間の関連は、単元の既習事項を確認する部分があり、学習のつながりが分かりやすいです。全体的な分量は適当です。また、科学が職業や日常生活に役立っている例を示しています。

教育出版は、教材の配列は身近な内容から学習を進め、疑問から実験へと導き、課題を解決する構成になっています。前半に1分野、後半に2分野が配列されています。各項目間の関連は、関連する項目や発展的な内容が欄外に丁寧に記述されています。全体的な分量は適当です。また、各単元の章末に要点の整理と問題が記載されています。

啓林館は、教材の配列は、観察・実験の目的がはっきりと記述され、課題が把握しやすいです。前半に2分野、後半に1分野が配列されており、3年の最終単元が「環境編」にまとめられています。各項目間の関連は、既習事項や関連項目が示されています。全体的な分量は適当です。また、別冊の問題集「マイノート」が添付されています。

次に、(3)、表記・表現についてです。東京書籍は、文章は理解しやすい表現で、空きスペースが適切で見やすいです。資料、図、写真はきれいで分かりやすいです。

大日本図書は、文章は理解しやすい表現で、字の大きさ、注釈も分かりやすいです。資料、図、写真はきれいで見やすいです。

学校図書は、文章は丁寧な記述がなされ、理解しやすいです。資料、図、写真はきれいで見やすいです。

教育出版は、文章は丁寧に記述され、理解しやすいです。資料、図、写真はきれいで分かりやすいです。

啓林館は、文章は理解しやすいです。「生命」「地球」「物質」「エネルギー」のインデックスがつけられています。生徒の興味を引きやすい写真やイラストが多く、資料も見やすいです。

最後に、使用上の便宜・その他についてです。東京書籍は、発展的な内容を章末で取り扱っています。また、地域でも行える観察・実験を取り扱っています。

大日本図書は、身近な課題を発展内容として取り上げています。また、最先端の科学技術を写真入りで解説しています。

学校図書は、発展的な内容は、実生活や実社会との関連を図りながら取り組めるように工夫されています。また、地域でも行える観察・実験を取り扱っています。

教育出版は、単元の章末に発展的な観察・実験が示されています。また、巻末に、「星座早見板」

「原子モデルカード」が添付されています。

啓林館は、暮らしの中の課題を発展学習として取り上げています。また、巻末に地域資料集があります。以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○教育長 構成・分量のところで1・2分野がまざって配列されているというのと、前半に1分野、後半に2分野、あるいは前半が2分野で後半が1分野、各教科書会社いろいろあるのですけれども、どれが使いやすいというのがありますか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 今回、学習指導要領で、学年で何をしなさいというのだけが示されたので、後は、その学校、地域の実態に合わせてできるようになったのです。ですから、実際にはどれをとっても同じように、指導者の問題だと思いますけれども。

○教育長 ということは、1年生の教科書を見たときに、教科書というのは大抵は1ページからずっといくわけですが、今回のこれに関しては、学校の指導計画に沿って、58ページからまず入っていくということになる、そういうことですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） そうです。特に前半に1分野、後半に2分野の会社と、前半に2分野、後半に1分野の会社については、特にそういう形になろうかと思えます。

○教育長 このまざっているというのは、普通、教科書会社は「1ページのほうからやっていっても大丈夫ですよ」という配列になっている、そう考えてもいいのですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） それは、教科書会社が、多分、1、2、3年で2分野、1分野をうまく組み合わせ、理科室の使い方もあり、その会社が提案している順序制で、あと、季節のこととか。

○教育長 季節は大事ですよ。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） ええ。その会社が全国どこでもこの並びなら大丈夫だろうというもので集約してつくられていますから、まざっているのは、その順番でというのは教科書会社の考えです。

○教育長 港区はどうですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 港区はどちらでも扱えると思いますけれども。

○教育長 その腕次第になってしまうのですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 腕次第というよりは、教科書の順番は違っても、年間を通してその中できちんと教えれば良いと思います。

○教育長 そうなったときに、例えば3年生などが都立高校の受験や何かのときに成績一覧表を出さなければいけないというときに、習っているものがそれぞれ違う、そういう中であまり問題はありますか？

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 3年の最後は、最終単元は、「エネルギーと○○」とか、「自然界と人間」みたいになるので、12月末までには、第1分野、第2分野ともに7つの章があるのですが、六つまではきちんとやり終えると思いますから、その辺は大丈夫だと思います。

○教育長 あとは、国語も数学も聞いてきたのですけれども、今、お台場、これから朝日、それか

ら、ほかの学校でも内容によっては小中一貫の教育をしていくというのが今港区の流れですけれども、そういったときの教科書の違いというのはどうですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 理科の教科書は、今回は全ての教科書が小学校からのつながりというのを意識して、小学校の振り返りとか基礎操作というのがかなり丁寧に書かれておりまして、そこら辺が5社ともきちっとされているので、どれになってもその点については大丈夫です。

○教育長 分かりました。

○小島委員 よく「理科離れ」などという言葉があつて、理科に興味を持ってもらうということは、国の政策としても大事なことですが、その観点からいって、理科の教科書というのはこういうものであつて欲しいなどという先生の理想といますか、希望をちょっと聞かせていただけますか。理科に本当に興味を持たせるには、こんな教科書のこんな点がいいなというのがありますか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 理科は、自分でやってみて、実感したり分かつたりして初めて自分のものになる教科だと思えますから、そこら辺、大事な実験・観察がきちっと入っていて学習ができることが大切だと思います。例えば金属と非金属というところがあるのですけれども、それを実験でやっている教科書とやっていない教科書があつたりします。それから、放射線については、今回、昭和44年度以来、もう1回戻つて入ってきたのですけれども、それについては学習指導要領で「触れること」ということなので、実験は特にする必要はないのですけれども、それにもかかわらず、「放射線を調べよう」という教科書会社もあれば、放射線の原理だけでとどまっているような会社もあります。そこら辺をどう考えるかというのはあると思います。理科の教員としては、限られた時間の中ですけれども、なるべく多く実験・観察をして、その中で実感させたり、自分の頭の中でわかつたりしたことのほうが残ると思います。

○小島委員 今の放射能の話は、旬な話題になっているから、生徒たちも非常に興味をもっているのだらうと思いますが、その実験となると、カウンターみたいなものがないと、放射能というのはだめなのですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 放射線は3年生の終わりのほうにあります。「はかるくん」というのがありますけれども、今、全国的にないのですね。身近な自然の中に放射線はあります。要するに、この部屋にもあるわけですね。福島原発の件を想定して作られている教科書ではないので、自然界の放射線、身近な放射線を計ってみようというようなことから、原子力発電ということにも触れて、それから、様々な発電、再生可能な持続社会をつくろうというのが学習指導要領にうたわれておりますので、太陽光発電も出ておりますし、風力発電も出ています。

○小島委員 これは、3.11のあの事故の前に全てつくられているのですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） そうですね。ですから、1年目の地震のところには東日本大震災は全く出ていません。

○小島委員 原子力発電については何かコメントがあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 今どういうエネルギーがあつて、今後どういうエネルギーが使えるかというようなもので、3年生の教科書の終わりのほうに、エネルギー利用についてのことで触れています。

○小島委員 教科書採択に当たって、原子力発電の安全性云々というような点については、かなり考えたほうがいいのでしょうか。それとも、そこまでは必要ないと。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） どの社も、学習指導要領に示されていることが教科書に書かれていますので、それほど差はなかったように思います。どこも原子力発電所の仕組みがあって、そのほかいろいろな発電の仕組みがあり、今後、風力とか太陽光とかといったようなことが書かれています。

○小島委員 分かりました。

○澤委員 私どもも何回か教科書採択をやらせていただいて、理科は今回、内容が随分濃くなったというか、かなり数値的に扱うようになっている。電気の分野なども、これまでは実験とか、そういう観察が主体で、定量的なものの扱い方が何か物足りないなという印象を持っていたのです。今回は、かなり充実してきて、逆に、生徒がちゃんとしてこられるのかという、そういう危惧みたいなものを感じました。伊藤先生のご経験からすると、この程度のことは、きちんと教えてやれば、生徒は理解できるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 理科の時数自体が3年間で95時間ふえましたので、それに伴って、前回削られた平成元年度の学習指導要領の分から、昭和44年度にやっていたものが復活したりとか、様々なものが入ってきて、澤先生がおっしゃるとおり、中身が濃く、また定量的にも計算も多くなっています。

○澤委員 今、先生からご説明いただいた教科書の選定資料のほうの（1）の内容の選択のところで、ア、イ、ウ、エとあって、「その他」というのに、例えば東書ですと、「実験結果についての解説が丁寧で、分かりやすくまとめている」とあります。他はどうなのかなと見ると、大日本も、学図も、教出もそういうコメントがついているのですけれども、啓林館にはそれがありませんが、「観察・実験結果についての解説が丁寧で分かりやすい」というのがついていないのは、他に比べると、その点は若干問題があるというのか、何て言うのでしょうか、そういう意味なのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） いや、そんなことはないです。記入がないというだけです。

○澤委員 あと、啓林館は、1分野と2分野の最終単元が一つの「環境編」にまとめられている。また、巻末に地域資料集が新設され、地域の風土・環境に触れるという、幾つか工夫されているところが強調されているように聞いたのですけれども、特に、内容の選択のエのところで何か問題はないのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 問題はないです。

○教育長 中学校の理科室は、この実験は大丈夫でしょうか。どこの中学校も。

○教科書選定研究委員会委員（伊藤） 足りないものがあるので、買わなければいけないものはあります。分量が増えて、実験・観察が非常に増えましたので、必要なものはあります。

○半田委員長 続きまして、渡辺一信先生に保健体育の説明をお願いしたいと思います。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） 港南中学校の渡辺と申します。保健体育の選定資料の報告をいたします。

まず、観点の内容の選択についてです。東書は、基本的な内容が簡潔に記載され、理解しやすく

説明されています。また、1時間の中で、知識を活用したり、思考力・判断力・表現力を育成したり、さまざまな能力を使って学習することができるようになっていきます。

大日本は、科学的な資料が多く引用され、正確な内容となっています。単元の初めに「今日の学習課題」があり、本時の内容が分かりやすくなっています。また、安全なスポーツの行い方の内容が詳細で分かりやすくなっています。

大修館は、内容が簡潔にまとめられており、分かりやすくなっています。単元の初めのページに「学びの図」が用意されており、単元全体の学習の見通しが立てやすくなっています。安全に関する記載が多角的に取り上げられています。

学研ですが、学習課題によって資料の量を増やしたり、説明の量を増やしたりしており、課題解決がしやすい内容となっています。

次に、(2)の観点、構成・分量についてです。東書は、見開き2ページを1単位時間で学習できるようにし、「今日の学習」「やってみよう」「本文と資料」「考えてみよう」「生かそう」という学習の流れになっており、教材の配列が無理なく自然に取り上げられており、系統的で理解しやすいです。また、章の扉に、小学校の学習を振り返り、学んでいることが高等学校ではどのような学習に発展できるか確認できるようになっています。東書は、保健編が前半122ページ、後半に体育編が30ページの構成になっています。

次、大日本。大日本は、体育編が前半48ページ、後半に保健編が97ページの構成になっています。内容の配列・分量については適切であります。資料のページ、説明で構成されているので、分かりやすくなっています。

大修館。体育編が前半48ページ、保健編が後半に108ページの構成になっています。文章の分量を少な目にして、図で理解しやすい構成になっています。

学研は、前半に保健編108ページ、後半に体育編40ページで構成されています。学んだことを生活でも生かすことができるように、実践や実験を促す構成になっています。

次に、観点の(3)、表記・表現についてです。東書のほうは、図、写真、色使い等、非常にバランスがよく、見やすくなっています。

大日本は、写真や図、表が効果的に取り入れられており、分かりやすくなっています。各ページの端に学んでいる章の表記がしてあり、どこの内容を学習しているかが一目でわかるように工夫されています。また、「考えよう」の表記が導入として学習者に興味を高めるようになっています。

大修館は、図が分かりやすく、思考力を働かせる効果がある内容になっています。文字の背景が色地で、文字が見やすくなっています。また、余白に罫線が入っており、ワークブックのようにメモをしやすい工夫がされています。心肺蘇生法の内容がシンプルで理解しやすく、文章と写真のバランスがよくなっています。

学研は、写真や絵、図、グラフが効果的に掲載されており、見やすく分かりやすいため、生徒の興味・関心を引くように工夫されています。内容に合った資料、図等が多く記載されており、図、写真、色使いのバランスがよく、見やすくなっています。

4番目の観点、使用上の便宜・その他。東書については、「考えてみよう」というコーナーがあり、

発展的学習がしやすく、また、章末に資料が用意され、その資料を活用して学習をより発展させることができるようになっていきます。

大日本は、学習のページの最後に発展的な内容が適宜取り上げられており、興味を高めるように工夫されています。また、リンクというところがあることで、他の項目との関連性を持たせ、より深い学習を行うことができるようになっていきます。

大修館。「発展」という項目を設け、もっと知りたい人のために設けられている項目があります。学習のまとめがあるので理解しやすくなっています。また、課題が示され、発展的学習に活用できるようになっています。各学習項目の最後に、作業課題「やってみよう」を設け、学びを深めたり、発展させるために活用できるようになっています。

学研ですが、章末に資料探究があり、学習したことをより発展させることができる資料が用意されています。以上、保健体育科の報告です。

○半田委員長 ただいまの説明に対しまして何かご質問はございますでしょうか。

○澤委員 各出版社によって、保健編が前半、体育編が後半となっているのと、また、逆のものがありますが、これは使う上で何か違いはあるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） おそらく、スポーツを前に持ってきている会社は、スポーツの意義とか効果、また、その多様な内容の意味といえますか、それを重視しているところを打ち出しているのかなというふうに思います。ただ、前半、後半どちらに持ってきて、教科書の使用上に関しては支障がないと思います。

○澤委員 なるほど。その出版社の考え方で、保健が前になったり後になったりしている。

○小島委員 よく学校の体育の授業で骨折するとかがをするような場合が、年間そんなに数は多くないですが、中学校でもあると思うのです。各教科書を見て、体育授業中のけが防止のために説明している教科書はあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） 多くの教科書の発想なのですが、スポーツをするに当たっての安全な配慮というか、行い方ということについては、どの種目をするに当たっても、最初に教師が説明をしたり、あるいは注意をしたり。教科書にもそういうことが記載されています。安全に行うということは、トレーニング効果を高めるということで、そういう意味では、単にけがをしないというだけではなくて、そういう自分の技能や運動や体力を高める上でも必要なことであるというところで話をしていると思うのです。

○教育長 保健体育の教科書でこの分野のことはしっかり書いておいてもらわないといけないというところはどこなのでしょう。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） ちょうど中学校期というのは思春期で、体の発育・発達というのが一番中心的なのですね。ですから、まずは自分の体の特徴を理解する。そういう中で、食事や運動、またスポーツの方法等をしっかり身につけながら、また、そういうものに取り組んでいくことになりますから、基本的には保健編の体のことについて書いてある内容が大事だと思います。

○教育長 それについてはこういう教科書がいいなというのはありますか。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） それぞれ特徴があるのですが、今回の教科書を見た中では、

中学生の体とか心理状態をうまくとらえて学習ができるような構成になっているのは東書かなというふうに思いました。

○半田委員長 よろしいでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（渡辺） ありがとうございます。

○半田委員長 続きまして、福永永廣先生、技術の説明をお願いします。

○教科書選定研究委員会委員（福永） こんにちは。朝日中学校の福永でございます。では、説明させていただきます。

まず、技術分野です。内容の選択というところがありますが、そのアのところ、題材の正確さや分かりやすさについては、東京書籍は、各章の目標に関連した学習内容が示されており、学習の流れが分かりやすい。

教育図書においては、製作に当たって、図や製作題材例や作品例のつくり方の写真や図が詳しく載っており、これも分かりやすい。

開隆堂は、タイトルが簡潔に示され、ポイントである学習の流れが分かりやすい。

イのコンピュータの取り上げ方については、東京書籍は、情報モラルの具体的な事例がよく書かれています。

教育図書は、ソフトウェアを使った製作過程が丁寧です。

開隆堂は、ソフトウェアの説明が丁寧で分かりやすい。

ウのその他ですが、東京書籍。まとめのページや実習例が豊富。

教育図書は、各章にまとめがあり、学習の整理がしやすい。

開隆堂は、他社と同じく、まとめのページや実習例があって、分かりやすいです。

2番目の構成・分量については、題材の配列ですが、東京書籍は、内容が豊富で見やすく、学習の見通しを持たせやすい。

教育図書においても、3年間の学習の見通しが立てやすい。

開隆堂は、教科書の活用や実習の安全、まとめなどがまとめて配置されており、これも見通しを持たせやすい。

イとウはまとめて説明いたします。東京書籍ですが、まとめによって振り返りができ、各生徒の到達度状況が確認できます。

教育図書においては、基礎的な題材から発展的な題材まで取り上げられていて、分量も適切だと思います。

開隆堂は、資料が多く、調べ学習がしやすい。生徒の実態に応じて内容の選択が必要かなというふうに思われます。

次に、表記・表現です。最初にお断りしておきます。どの教科書、3社とも、写真、図、絵が豊富に組み込まれていることを最初にお話しておきます。まず、説明の分かりやすさについては、東京書籍ですが、字が太くて、色を変えるなど工夫があります。

教育図書は、写真に説明書きで分かりやすくしています。

開隆堂は、文が短くまとめられて、読みやすい。

イトウはまとめて説明します。東京書籍は、写真だけでなくイラストなども適切に配置されて見やすいです。

教育図書においても、写真で製作工程が分かりやすく、生徒が教科書を見ながら製作できる面が良いと思います。

開隆堂は、写真、イラストを多用し、基礎的な内容が分かりやすく、各章ごとに色別があって分かりやすい。

最後の使用上の便宜・その他においては、これはアとイをまとめて説明します。東京書籍の一つ目ですが、栽培の例として、場所を選ばずできるものを挙げて、取り扱いやすい。もう一つは、実生活で使える内容があり、生徒の意欲を高めやすい。

教育図書においても2点あります。一つは生徒の興味・関心に応じて発展的に学習に取り組める工夫があります。もう一つは、実践例が多く、日常生活に生かしやすい。

開隆堂も2点あります。一つはページ下に「豆知識」を設け、興味・関心を引きつける工夫になっています。もう1点は、「生活に生かそう」という項目があって、実践活動につなげることができるようになっています。これが技術分野です。

○半田委員長 ただいまの説明に対しまして何かご質問はございますか。

○教育長 どの教科書も、昔の教科書と変わってきたなという感じがしますね。本当に写真が豊富で分かりやすくいいなと思うのですが、最近、技術の授業を見ていて、木工などの作品を作っているときに、キットというのですか、あらかじめ材料がほとんど整っていて、それを組み立てて、そして色を付けてというような、そういう授業が多いという気がするのですが、この教科書を見るとそうでもないようですが、どうですか。

○教科書選定研究委員会委員（福永） 木材加工においてはそういうことを素材から、素材といっても、半素材ですね。頭のほうとか上のほうはかんなをかけてあって、あとは材料を組み立ててもらいます。私は昔、ラジオをつくったことがあるのですが、今はそういうのは子どもの興味は引きません。完璧にでき上がって音が出るとか、そういうことでなければ、保護者から完成品として認められていないという部分もあって、技術科の先生はなかなか苦勞していると思います。あと、100円ショップの物がはるかに安くて物がいいときもありますから、技術科の先生はもっと色々工夫をしなければいけない。その一つに、小学校での図画工作の時間で作るものと、技術・家庭で作っているものとの違い、差というのはどこにあるのだと質問されると、技術科の先生はもっと授業の改善、工夫をしなければ、魅力のない講座になっていくだろうと思います。

ただ、小学校と中学校の違いは、使う工具がいろいろあって、特に今みたいな災害時のときに、100円ショップで買える、間に合う時代なのだけれども、何も無くなったときに、こういうものを使えばこんなことができる、こういうふうになれば曲げられるとか、そういう生活の知恵が高まる。さらに、今、技術科で求められているのは、家庭科も同じなのですが、いかにそれを生活に役立つことに結びつけるかということを考えていかなかったら、魅力のある授業として継続はできないだろうと考えています。

○澤委員 私も福永先生の今のご意見に全く大賛成で、技術というのは、木工したり、椅子をつく

ったりなどだけではない。技術がどのように世の中に役に立っているのか、そういう視点から子どもたちに技術を教えなければいけない。教育長が言われたように、極端なことを言うと、キットを組み立てているようなのでは本当はおかしいし、私なんか、高校でも技術の授業があっても良いのではないかと考えています。高校へ行くと、理科とか、物理とか、科学とか、また基礎学問に戻ってしまって、それがどのように世の中の役に立っているのかという視点が欠落しているような気がします。例えば材料と加工のところも、持続可能な社会のための技術について考えようとか、エネルギー変換とか、随分変わってきたというか、大きく技術をとらえるという視点が前面に出てきているような印象を受けました。

○教科書選定研究委員会委員（福永） 例えば、理科の授業でエネルギーの理論を1回学んで、技術科はその理論を使ってどのように工夫できるかというところにいけばいいのですけれども、教科との関連付けが上手くいっていないように感じます。理科でもオームの法則は習います、技術でも習いますと。先程の原子力発電のことも、エネルギー変換ということでは、風もあるし、火もある、地熱もある、いろいろなことをやっているのですが、その辺のことをどうしたら上手に生活に役立つのだろうかという実践的なものが技術科だと思うのですが、東京のこのような中ではなかなか難しいです。昭和63年から平成3年ぐらいに私は目黒の東山中で教えていたのですが、ダイナミックな作品を家庭へ持ち帰らずと、池尻大橋から学校に行く間に、翌日は全部ごみに出ています。保護者が「先生、大きくて邪魔だよ」というようなことで。部屋が狭いなど家庭の事情があるかとは思いますが、ダイナミックなものが少しずつ小さく変わりつつあった年代が昭和63年から平成2年、3年、この辺のところで価値が違ってきたというのもあって、大きいのをつくっても翌日はごみに出ているというのが現状ですね。

○澤委員 限られた時間内に生徒にそういう技術と社会のつながりみたいなものをどうやって知ってもらえるか難しいところはありますね。

○教科書選定研究委員会委員（福永） それは難しいです。かつては3時間だったので時間があるのですけれども、今、2時間ずつですから。あと、家庭科と技術科と別れていたのも、女子生徒も3時間、男子も3時間、時間もたっぷりあったのですね。今は男女共修で授業をしていますから、しかも2時間ですから、簡単に言えば、2週間に1回しかやれない。70時間ですから、今週家庭科をやったら来週は技術ということですね。今は、家庭科とか技術は実習しやすいために2時間続きでとってしまうものですから、家庭科を2時間とったら、今週は技術の先生は暇というような状況も発生し、先程教育長がおっしゃった、もっとダイナミックなものとか、そういうものができないという時間数でもあります。

○澤委員 限られた時間数とこの教科書の内容を考えると、なかなか大変ですね。

○教科書選定研究委員会委員（福永） そうですね。だから、一つの考え方なのですが、ある教科書は、自宅で1冊本棚に入れておけば、生活で、いつでもそこを開けばすぐ使える、そういう意味合いで、「この教科書を立てておくといいよ」という技術科の先生の知恵を、生徒たちに伝えていかなければいけないと思うのです。これを全部やることはちょっと無理です。さっきも言いましたが、こういう災害が起こったときに、「こういうときにどうするんだっけ？」と思ったら、ある教科書を

ぺらぺらっとめくったらすぐわかります。板は切らなくてもこうやればいいんだ、のこぎりはこうすればいいんだとか、工夫ができる。ちょっとした家庭の知恵事典みたいなそういうものに使えると思いますので、ある意味では、内容が豊富だというのはいいかもしれません。ただ、授業する時間数と比べるとなかなか課題はあると思いますが、そのように感じます。

○澤委員 コンピュータというか、インターネットを含めたこういう技術だって、中学生ぐらいになるとどんどん使っているの、基本的に注意する点とかは非常に大事なことですけれどもね。

○教科書選定研究委員会委員（福永） コンピュータなどは小学校でも使っていますから、小学校との関連があるとか、小学校でどういうことを学んだとか、モラルの問題とかいろいろなことは続けてやっていかなければいけない。

○半田委員長 よろしいでしょうか。続きまして、家庭科の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（福永） 家庭科も、最初にお話ししておきますが、3社とも写真とか図とか絵とか豊富に盛り込まれています。そういうことをまず最初に念頭に入れておいて、内容の説明をします。

まず、内容の選択です。アの題材の正確さ、分かりやすさについては、東京書籍は、各単元に「目標」が設定されており、学習の流れが分かりやすいです。

教育図書も、「ポイント」の項目があって、内容が整理しやすい。

開隆堂においても、「考えてみよう」「話し合ってみよう」という、言葉を使って項目を明確に示して題材の目的がわかるようにしてあります。

イの日常生活とのかかわりについては、東京書籍は、環境、安全、食育など今日的な課題を取り上げています。

教育図書は、日本の生活文化の内容を多くということの中で、環境、安全、食育を取り入れています。

開隆堂は、家庭生活や地域に焦点を当てた題材の中で、環境、安全、食育というところに結びつけています。

ウのその他ですが、東京書籍、課題解決の方法が具体的です。

教育図書も、生活環境に関して具体的です。開隆堂も、家庭生活に関して基礎的・基本的な内容を示して、これも具体的だというふうに言えます。

2番目の構成・分量について。題材の配列についてですが、東京書籍は、各章ごとに「この編で学ぶこと」「目標」「学習のまとめ」というふうに設定されていて分かりやすいです。

教育図書も、同じようなことで、学習の流れにつながりがあります。

開隆堂は、「学習の目標」「導入課題」「発展学習」「ふり返り」といったように、またこれも各章の流れを分かりやすく説明が配置されています。

(2)のイとウはまとめて説明します。東京書籍ですが、適切な分量になっています。先程も説明しましたが、分量というのは、自分のうちの本棚に立てておいたら役立つというのものもあるし、それを全部使うという意味では大変なこともあるのですが、適切かなというふうに思います。東京書籍ですが、適切な分量、単元ごとに「学習のまとめ」が構成されています。

教育図書も、分量も適切で、各領域の終わりに「確認問題」が入れてあります。

開隆堂は、調理例とか製作例などは易しいものから難しいものまで多様に取り入れて、生徒の実態に合わせて使い分けることができると思います。

それから、表記・表現についてです。アの説明の分かりやすさについては、東京書籍は、実施の手順が統一されていて分かりやすい。これは東京書籍だけではなく、教育図書においてはキャラクターを用いているのですが、これも学習の流れは分かりやすいです。開隆堂も、各章の最初に学習の流れがあり、学習の見通しがつけやすいようになっています。

ここもイとウはまとめて説明します。東京書籍は、最初に言いましたように3社とも同じですがけれども、写真やイラストを用いて、基礎的・基本的な技能を確認することができます。他教科との関連も分かりやすくなっています。

教育図書においても、原寸大の写真とか失敗例などを載せることで、視覚的な訴え方で工夫をしていると思われます。

それから、開隆堂もそうですが、食材の写真などを実物大で示して、視覚的なところに訴えようという工夫があります。あと、「豆知識」「コラム」などの工夫で学習を補っているところがあります。

最後に、使用上の便宜・その他ですが、ここはアとイを2点ずつまとめて説明します。東京書籍は、一つは随所に環境マークを示して、社会生活で自分ができることを考えさせるようにしています。あともう一つは、さまざまな授業形態や実習時間に対応できるよう、多くの実習例を示しています。

教育図書も2点。1点目は「生活の課題と実践」で、興味・関心に応じて「発展」に取り組める工夫をしております。もう1点は、生活の中で活用できるような実習事例が多く取り入れられています。

開隆堂も2点。基礎・基本と発展学習の区分が明確で、習熟度に応じた指導ができるようになっています。また、もう1点は、各種の職業人、働いている人たちのメッセージというのが載せてあって、ある意味では、勤労観や職業観をそこではぐくむことができるのかなというふうに思います。

家庭科は以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○教育長 去年、小学校の家庭科の教科書を選ぶときに、小学校の家庭科の教科書も、家に1冊常備しておけば本当に便利だと感じましたが、中学校の教科書はそこにまた専門性が少し加わっているので、本当にこれが1冊あれば、生活していくのに問題ないだろうという感じなのです。これも、教える分には、こんな内容は3年間ではできないのだろうとは思うのですが、どれをとってもというので非常に困りますが、何かいいアドバイスはないですか。

○教科書選定研究委員会委員（福永） ここは教科書採択の場なのですが、あえて言わせていただくなれば、家庭科の教員が1人しかいません。お台場学園港陽小学校にはおりません。中央審議会の平成20年度の1月の中にこんな文章が載っています。少子化・高齢化や家庭の機能が十分に発達されていないといった状況に対し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者

との交流を家庭科は重視していきましょうと。ところが、少子・高齢化、そういうことをよく分かって教えてくれている講師の先生が果たしているのか。そういうことでは、家庭科の専任が1人というのはちょっと寂しいかなと思います。

それから、もう一つ。中央審議会では、小学校との内容との対比を図りという中に、家族や家庭と子どもの成長、食生活の充実、衣食住、家庭生活と消費環境とか、まさに今、日本が求められていること、小学校から中学校へかけてもそういうことに焦点を絞りましょうと、審議会の答申の発表があるのです。家庭科というのは女性の先生が教えるとは限らないのですけれども、いかに家庭生活とか心の教育とかそういうことが求められているかということがありながら、実は技術科ばかりが多いなど。教科書の採択とは関係ありませんけれども、実はそう思いながら、どうやったら改善できるのかなということを考えながら、採択のほうも進ませていただきました。

○小島委員 今、先生のおっしゃった少子・高齢化や、家庭の大事さということについて、この教科書の中で、例えば栄養とかいろいろあるから、一つ一つはそういうことなのでしょうけれども、その根本的な理念というか、根本的な精神というか、考え方を教えるような時間はこの教科書の中からとれるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（福永） あります。うちですと、近隣の三光幼稚園に行って実習をやったりしています。そういった取り組みを他の教育委員会でもやっていると思います。

諸外国においては、お父さんとお母さんが生まれた子どもを連れてきて、お父さんが抱いたり、お母さんが抱いたりしているのを子どもたちの前で見せたりしながら、子育ての大事ということと、やはり子どもたちが必要というのもありますね。技術科の中にそういう子育てのことは入っていないのだけれども、家庭科にはそういうことがいっぱい入って、子孫を残すとか、子どもを育てるとか、そういう部分に、焦点がいっぱい当てられているということは事実です。

○半田委員長 よろしいでしょうか。続きまして、新庄恵子先生、英語の説明をお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 高陵中学校の新庄です。よろしくお願いいたします。

では、内容の選択についてご説明いたします。東書です。東書は、全体的に諸外国のことを知るというテーマの内容が多い。「読む」活動を中心に国際理解、環境、情報化、人権など、多様な題材を扱っています。また、文法事項についての「まとめと練習」の構成が非常に分かりやすくなっています。

次に開隆堂です。異文化理解や環境問題、社会問題など、幅広い題材を扱っています。内容としては、会話・対話・スピーチなどの発話中心で、実際に即している内容です。

1年生では「Let's Start」という部分が設けられていて、小学校での外国語活動からスムーズに英語の授業に入れるような工夫がされています。小学校の外国語活動との円滑な接続のための工夫は各社で配慮されているところですが、分かりやすくなっています。

次に、学図です。自国文化、異文化ともに、生徒にとって身近なものを取り扱っている題材が多く、非常に分かりやすいです。また、同じように、小学校外国語活動の復習として、1年生の巻頭に「Pre Lesson」という項が設けられていまして、中学校の英語学習に導入しやすくなっています。

次に、三省堂です。三省堂は、題材として、人権問題や公民権運動、戦争など、人間社会のテーマを深く考える内容になっております。対話、スピーチ、インタビュー、説明文などの題材に合わせた多様な英文の形式をとっています。また、場面設定はもとより、手紙やeメール、テレビ番組など、生徒たちにとって興味深い、実生活に結びついたものとなっております。

次に、教出です。生徒の日常生活、学校生活など、身近な内容を多く取り扱っています。異文化理解の他に日本文化の題材やホームステイの題材を取り扱っています。

次に、光村です。光村についても、環境問題、異文化理解、社会問題などの題材を取り扱っています。また、「Activity」「Task」「Language Focus」など、習得から活用という学習形態の流れが非常に豊富で、実際に習ったものをすぐに活用できるような構成になっています。

続いて、構成・分量についてです。東書につきましては、1ページの中に、ポイントの説明から練習問題までを全て盛り込んでいて分量が多いというように感じます。リスニングの後にスピーキングと続く配列は、英語科国際の授業に非常に使いやすいように感じます。それから、読む分量については多い感じがあります。また、「応用編」として巻末のページが充実してありまして、生徒たちの自主的な学習に適しています。

次に、開隆堂です。開隆堂は、見開き2ページの構成が、本文1ページ、そして文法事項の解説1ページとなっておりまして、大変見やすい構成になっております。英語を読む分量は比較的多いです。また、1年生の巻末に、適量のペンマンシップがついてありまして、そのまま教科書を使えるような形式になっております。

次に、学図です。これは特徴的なのですが、1年生の最初の単元が一般動詞、「like」とか「have」とかで始まっています。港区では小学校で慣れ親しんできた表現ですから、スムーズに学習が開始できるかと思えます。それから、レッスンごとのページ数が少ないところではありますが、全体的に英語を読む分量は少ないという印象があります。長文を読む学習には工夫が必要かと思えます。

続いて、三省堂です。三省堂は、レッスンごとの文法事項のまとめ「文法の要点」は非常に分かりやすくなっています。

次に、教出です。教出は、学年が上がるにつれ英語を読む分量が増えていくのですが、特に1年生の教科書の本文の分量が少なく感じます。

次に、光村です。光村は、先程もお話ししましたが、習得から活用までの流れが非常に分かりやすい構成になっています。それから、文法事項のまとめ「Language Focus」というところが生徒の自主学習を手助けできるような分かりやすい構成になっております。全体的に読む分量は多いように感じています。

次に、表記・表現についてです。東書です。巻末の「応用編」に英作文やスピーチというような役立つものが挙げられています。また、基本文のルールや注意事項を吹き出しを使って丁寧に説明され、その適宜、分かりやすい工夫がされています。また、読み方の強弱を大きな黒丸と小さな丸で文章の上に表示してありまして、どこで強弱をつけたらいいかということが分かりやすくなって

います。それから、アイコン、記号があり、リスニングとか、ここはどのような活動をするのかということが分かりやすく工夫がされています。

次に、開隆堂です。目次のところにプログラムのタイトルと、その課のタイトルと文法事項が併記されていて、初めにどういうものを学習するのかというのが分かりやすいような工夫がされています。基本文は、ダイアログ形式、対話形式になっていて、コミュニケーション活動に生かせるような工夫がされています。

次に、学図です。特徴的なところは、1年生の教科書に点字を扱った単元がありまして、実際に凹凸があり手で触れて点字がわかるような、体験できるようなものが教科書の中に盛り込まれています。また、強弱や音のつながりですね。例えば「t」が重なっていれば、「フライト・タイム」では、「t」を重ねて「フライタイム」にするとか、「アライブ・アット」だったら、「アライブ」の最後と「a」をつなげて「アライバット」というような、そういうスムーズな英語の発音に結びつくような工夫がされています。

次に、三省堂です。三省堂につきましては、巻頭で、レッスンごとに学ぶことを明示していて、ねらいがつかみやすくなっています。巻末のブロックには、「絵でわかる英語のしくみ」というものがありまして、文法等を大変コンパクトにまとめて、分かりやすくなっています。

次に、教出です。文法の説明ですが、重要な部分や相違点を色分けして体系的に分かりやすく配列してあります。また、重要構文リストが巻末にありまして、これも、まとめて自主学習をするときに非常に役立つのではないかと思います。

次に、光村です。光村は、文法事項の解説、文構造が分かりやすい表記になっています。また、1年生から発音記号と単語例を表示して、難しい音については意識して発音できるような工夫がされています。

最後に、使用上の便宜・その他についてです。東書です。東書につきましては、「ジェスチャー」とか、「ことわざなどの日英比較」、日本語と英語の比較、「役立つ会話表現」など、生徒の興味・関心を引く取り上げ方をしております。また、日本文化では、花火とか修学旅行、アニメーションなど、身近な話題を扱って、生徒たちの興味・関心を引くような工夫がされています。

開隆堂についてです。巻末の「Basic Dialogのまとめ」というところに2・3年生のクイックQ&Aがあります。英語の授業では、ペア活動、1対1で対話をしたり、会話練習をしたりするのですが、その活動に役立つような工夫がされています。また、1年生、特に入門期なのですが、アクションカードというのがありまして、これが切り離して使えるようになっていて、4技能——「話す」「聞く」「書く」「読む」、全てのアクティビティに使用できる工夫があります。また、リサイクルやクリーンエネルギーなど、現代社会でよく取り上げられる環境問題を扱っています。

次に、学図です。文法事項の解説は非常に丁寧で、自主学習ができるようになっています。また、外国の文化を日本文化と比較しながら学校生活を紹介する題材がありまして、これは、異文化理解、自国文化理解には非常に役立つと思います。

次に、三省堂です。三省堂は、先程もお話ししたように、人間社会のテーマを深く考える内容に

なっていて、人権問題を取り扱っている課などもあります。ここについては、外国籍の生徒が在籍する場合、多少慎重な授業の進め方について配慮が必要になるのではないかという意見が調査委員会で意見がありました。外国人の視点から日本文化を紹介する内容は興味深く感じます。

次に、教出です。日本文化の紹介を外国人の視点で書いています。京都、沖縄、北海道など、日本のさまざまな地域を扱っているところが特徴的です。

最後に、光村です。これはほかの教科書にはない特徴的なところですが、1年生から3年生までの教科書が4人の中学生が、キャラクターとして登場して、その中学生を取り巻くさまざまな、友人とのけんかや和解、悩みなどを取り上げています。一つの物語で、生徒にとっては親近感がわくような題材ではないかと思います。以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 港区の場合は、小学校から英語を教えています。それとの関連で、中学1年の教科書はこのような内容でよろしいのでしょうか。それとも何か足りないところはありますか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 先程、読む分量としては少し少ない感じがすると申し上げましたが、港区の小学生は、1年生から学習しているため、教える側がもう少し補助教材やワークシートなどを用意した方が子どもたちにとっては分かりやすいのではないかと思います。

○澤委員 今回の小島委員の質問に関連して、港区の場合は、私どもも小学校の学校訪問などで授業を見せていただくと、高学年になると、結構進んだことをやっていて、極端なことを言うと、中学校1年生の教科書の半分ぐらいは要らないのではないかと感じたりします。その場合、中学1年の教科書の後半ぐらいから始めて、1年生の3学期頃は2年生の教科書に入るなどということはあるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） そうですね。今度、来年度は授業時数が週3時間から4時間になりますので、可能な部分はあると思います。しかし、小学校は外国語活動ですので、英語、外国語により親しむ活動。中学校になると英語教育なので、言葉、言語としての文法事項とかいろいろ教えずにはいけない部分もあるので、全く最初の部分を省略するのは難しいかと思います。

○澤委員 なるほど。要するに、これは英語だけではないのですけれども、教育というのは効率ばかりではありませんけれども、同じことを繰り返しても子どもたちも面白くないし、小学校との重複になるものはなるべく避けたい。より進んだということで、何も先に進むのがいいわけではないのですけれども、そういうプラスアルファの時間でもっと色々なことを先生に教えて頂くと良いのかなと思います。というようなことで、その辺はさっさと終わらせるのがいいのかどうかは何とも言えませんが、小学校で英語の学習というか、英語になれ親しむということをしているので、それを有効に使っていただくことが大事なことなのかなという気はしますね。せっかく小学校でこれだけ力を入れていたのが、中学でどういように活かされるのか、その辺のことを英語の先生がきちんと意識を持ってやっていただけているのか、そのあたりも関心点です。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 区の教育研究会の、区協研、小学校国際科と中学校の英語科が昨年度に引き続き、今年度合同で、研究会を行っています。そこで小・中の連携についてはよく話し合いをしています。小学校を卒業し中1でどれぐらいのことができ、何ができないのかとい

うのをアンケートのようなものをもって、進めるような連携をしています。

○澤委員 昨年だか一昨年だか忘れてしまったのですけれども、研究会で赤坂中の北原先生が1年生にアンケートをとって、それで小学校でどんなことができるようになったか。それに基づいて、アルファベットでも発音のほうを重点にしている、何て言うのでしたか、AとかBとかいうのと、アとかベとか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） フォニックスですか。

○澤委員 それです。そっちのほうにすごい重点を置いていて、生徒がすごく張り切って大きな声でやっているのが印象的でした。そういうことをスタートにして英語に興味を持ってもらうような、そういう教え方というのはなかなか興味深いなと思いながらクラスを見させていただいたのです。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 小学校で6年間英語を学んできた子どもたちが教科書にある円滑な接続のための導入期の部分を学習しなければいけないかという、それはかなり省略できると思います。NTとのコミュニケーション活動に力点を置くということは小学校では必要になってきます。

○小島委員 小学校の授業などに参観に行くと、NTの先生など、発音や会話などが多いのかなというふうに思います。昔は読む専門、今は発音、会話がかなり重視されているので、そういう意味では、小学校から中学校への接続というのはスムーズにいくと思うのですね。ただ、中学の英語の場合に、会話は今もちろん大事なのだけれども、プラス、読解の問題とか、文法の問題とか、英作文とかそういうのがあるのかどうか分かりませんが、そこら辺が中学1年の段階は小学校とのスムーズな連携、その後、それ以外をどうつなげていけるかという、そこら辺は何か関係あるのですか。それとも小学校とあまり関係なくというようなことでしょうか。読解とか、文法とか、そういう話になってくるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 今回の学習指導要領では、4技能を総合的に育成するというポイントが大きいです。小学校では、「聞く」「話す」が慣れ親しむ中であつたのですが、6年間英語に親しんできたということは、かなりスムーズに他の技能を伸ばすことができるのではないかと考えます。

○小島委員 何年か前に比べて、英語の教科書も量がだいぶ増えましたよね。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） 来年度、授業時数が週に3時間から4時間になるので、その分増えていると思います。また、語彙数なども900語から1,200語に増えています。

○澤委員 また教科書とちょっとかけ離れてしまうのですけれども、今、レッスンワンとか、全体的に会話が主体ではないですか。その場合に、「英文和訳」など、一生懸命日本語に訳させるというのは、今結構力を入れているのですか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） バランスよく学習することが大切ですので、やらなくはないです。やはり日本語に直したときにどうなるかというのは必要だと思います。そのやり方についてはそれぞれの教師の指導の仕方によって違うと思います。例えば会話文のところなども、子ども同士でしゃべっているのに、「○○だと思います」とか、そういう丁寧な言葉で言うと不自然な気がします。では、自分たちの言葉で言うとうどうなるかなど、意味をとらえるのは大切です。

○澤委員 こういう読み物の場合に、中学の3年生ぐらいでどの程度入ってくるのか詳しくは分からないのですけれども、関係代名詞とかあるじゃないですか。それを日本語らしく訳そうとすると、どうしても後ろから訳さないと日本語にならない。そういう訓練をあまりしてしまうと、リアルタイムで英語で話せなくなってしまう。我々のころは、びしっとした内容のものを日本語らしく訳すことが大学入試でも結構重要だったわけですね。英語の発想と日本語の発想が違うのだらうと思うのですけれども、一生懸命後ろから訳すことを訓練してしまうと、今度は、英語を聞いたときに後ろから訳す癖がついてしまいますが、英語というのは頭から聞いてわからないとリアルタイムにはついていけない。だけれども、頭から英語を訳すと日本語にはならないわけですね。とんでもない日本語になってしまうわけです。日本人というのは、単語は知っている、文法は知っている。結構難しい文章が読めても、耳で聞くと単純なことが分からない。そういうことをどうやって克服していくか。英語だけではなくて、中国語も英語と似ているので。実用的な意味でいうと、その辺のことが英語教育の一つのポイントなのではないかと。そういう中で教科書も随分工夫されており、我々の頃の教科書とはすっかり違って、耳で聞いたり、言葉に出したりすることをトレーニングしているので、子どもたちの中ではそういう課題を克服していくのに役立っていると思います。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） そうですね。どうしても英語と日本語は語順が違うので、日本語は最後の文末まで聞かないと、好きなのか好きではないのかわからないというところがありますが、今の後ろから訳すのではなくて、聞いたことをそのまま理解していくということには、NTの存在が非常に大きくかかわってきます。例えば関係代名詞などではNTの話すことをそのまま聞き取って行って、どんなことを言っているのか理解していくことが大切だと思います。

○澤委員 そういう意味で、NTの存在というのはものすごく大きいですね。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） そう思います。

○綱川委員 例えば勉強していた子がまた元へ戻ってしまっていて、基礎のところから一緒にやっていると、私なんて、そんなの分かっているよと言っているうちに追い越されて行って、そのうちやる気がなくなってしまうというのがあるのですけれども、それが1点目。

あと、三省堂の説明会の中で「人権問題を取り扱っている」というところで、港区というのは結構外国籍の方がいて、教え方に配慮が必要だとおっしゃっていたと思うのですけれども、今、どういふところがあるのかというのを具体的に教えていただきたい。

あと、光村図書で、1年から3年まで4人がずっと出ているということで、3年間ずっと港区で育ってくれていればいいのですけれども、そういう懸念というのはございませんでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（新庄） まず一つ目のご質問の、他区から来た生徒への対応です。5、6年生の英語活動、外国語活動が港区より少ないところから来た場合、やはり最初は戸惑いがあると思います。でも、多くの学校では習熟度別の授業を行っていますので、習熟の程度に応じた授業ができると思います。しかしやはり遅れている子どもたちについては、授業の中だけというのは少し難しいと思います。そのときには補習のような形で英語の指導を行っています。

2番目のご質問です。これは、マーティン・ルーサー・キングの公民権運動のところを扱っていて、以前から扱っている題材です。また、長崎と広島に落ちた原爆についても調査委員会の中では、

外国籍の生徒がいるクラスの中では教えるときには少し配慮が必要という意見がありました。

3番目のご質問です。光村の特徴的なところとして4人が3年間登場しています。例えば2年生になって途中で転校してきた生徒にとっては、少し戸惑いはあるかもしれません。そのため、2年生の教科書の最初のページの「プロローグ」というところに、この4人が1年生のときにどのようなことをしてきたかということが粗筋として出ています。3年生でも、「プロローグ」で1・2年生のときにはどのようなことがあって、どこに転校して、どのような別れがあってという粗筋が書かれています。1年生からの教科書を知らないため少し戸惑いはあるかもしれません。

○半田委員長 よろしいでしょうか。

以上、各教科書についてご説明いただきました。教育委員の皆様におかれましては、これまでも各教科書について十分な検討及び研究されてきたと思いますが、平成24年度区立中学校使用教科書選定資料を貴重な参考資料として、次回開催の教育委員会での採択に向けてさらに研究を深めていただきますようよろしくお願いいたします。

本日予定している案件は全て終了いたしました。庶務課長、何かございますか。

○庶務課長 特にございません。

○半田委員長 それでは、これをもちまして閉会といたします。

次回は、8月9日火曜日、午後1時30分から、港区役所9階の911～913会議室で開催する予定でございます。よろしくお願いいたします。

皆さん、長い時間にわたり大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(午後3時23分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 半田 吉恵

港区教育委員会委員 小島 洋祐